

自己点検・評価報告書

- 平成21年度 -

文化女子大学
文化女子大学短期大学部

『平成 21 年度自己点検・評価報告書』 作成にあたって

文化女子大学は、平成 17 年度に財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、平成 18 年 3 月には同機構の定める大学評価基準を満たしていると認定され、特色ある教育について高く評価されました。

その後、文化女子大学・文化女子大学短期大学部では、大学教育における自己点検・評価活動を日常的な改革改善への取り組みとしてさらに実効あるものとするために、平成 18 年度以降、年度毎に組織的な改革・改善に繋げる自己点検・評価を報告書として取りまとめ、本報告書で 4 回目となります。

今回特筆されますのは、平成 22 年度に財団法人短期大学基準協会による認証評価受審を控え、文化女子大学短期大学部では各種規程の見直しと改定を行い、短期大学部の独自性を可能な限り確保するようにしたことです。

さらに、自己点検・評価の客観性・妥当性の確認作業として、平成 21 年秋には外部評価を導入、現代文化学部で先行的に実施致しました。今後他学部・短期大学部においても実施環境の整備を図り、順次実施する予定としていることから、本報告書の有効活用が望まれるところです。

本報告書作成にあたり、当初は義務的なものとして受け止められがちであった事柄も、FD・SD による教学マネジメントを背景にした年毎の自己点検・評価を継続的に積み上げることによって、組織化された質保証の PDCA サイクルが自ずと形成されていき、自己点検・評価活動がより有効なものへ繋がるシステムとしてきわめて重要な役割を担っていることを、それぞれが改めて認識したことは何よりの成果と捉えることができます。

以上の通り、全学的な FD・SD 活動に連携して自己点検・評価活動をまとめた本報告書の活用は、今後、本学の教育の内部質保証システムの構成・発展のために大いに有効であると考えています。

平成 22 年 6 月 1 日

全学自己点検・評価委員会

本学の自己点検・評価報告書 一覧

1. 『文化女子大学の現状と課題 自己点検・評価報告書 平成 13 年度 (2001)』
2. 『文化女子大学自己評価報告書 平成 17 年度』
3. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書 - 平成 18 年度 - 』
4. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書 - 平成 19 年度 - 』
5. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書 - 平成 20 年度 - 』

目 次

『平成 21 年度自己点検・評価報告書』作成にあたって

協議・審議機関

全学自己点検・評価委員会	5
全学 FD 委員会	7

協議機関

服装学部協議会	9
造形学部協議会	11
学部共通科目協議会	13
現代文化学部協議会	15
短期大学部協議会	17

審議機関・決定機関

大学院研究科委員会	
生活環境学研究科委員会	19
国際文化研究科委員会	21

常置委員会

教務委員会	23
学生生活委員会	25
研究委員会	27
カリキュラム委員会	29
紀要編集委員会「服装学・造形学研究」	31
紀要編集委員会「人文・社会科学研究」	33

専門委員会

教職課程専門委員会	35
学芸員課程専門委員会	36
衣料管理士課程専門委員会	37
住環境系資格専門委員会	39
司書課程専門委員会	40
文化・語学研修専門委員会	42
日本語教員養成課程専門委員会	43
児童英語教員養成課程専門委員会	45

特別委員会

ハラスメント防止委員会	47
留学生指導特別委員会	49
学生募集対策特別委員会	51
就職特別委員会	53
公開講座運営特別委員会	55
研究倫理委員会	57
研究費不正使用防止委員会	58

附属機関

文化女子大学図書館	59
文化学園服飾博物館	61
文化学園ファッションリソースセンター	63
文化学園国際交流センター / 留学生センター運営委員会	64
文化学園知財センター	66

附属研究所

文化ファッション研究機構	68
文化・衣環境学研究所	70
文化・住環境学研究所	72

事務局

全学 SD 委員会	74
-----------	----

学園本部

学園管理本部	76
経理本部	77
IT委員会(EDP室ネットワークソリューション課)	78
学園総務本部	80
附：委員会委員一覧表	附1
入学定員・収容定員・在籍学生数	附2
学部・学科・コース編成	附3
全学自己点検・評価委員会委員名簿	附4

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 平成 22 年度短期大学の認証評価への対応 短期大学基準協会による認証評価を受けるにあたっての問題点を明確化し、これらに対する対処方法について、短大の意思決定組織の明確化とあわせて大学運営会議に継続して検討を依頼する。 【短】</p> <p>2. 平成 21 年度自己点検・評価活動の改善・深化 自己点検・評価活動を活性化するにあたって、評価報告書の作成に留まることなく、全学的な大きな方針について検討を要する。 【共】</p> <p>3. 他の委員会との連携 全学 FD 委員会など、関連する学内他委員会との連携により、効果的な自己点検・評価活動を実施する可能性について検討を要する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 平成 22 年度短期大学の認証評価への対応 短期大学基準協会の認証評価を受けるにあたり、執筆要領の精査と資料収集の準備をした。短期大学部に関連する規程の整備については、「文化女子大学短期大学部教授会規程」「文化女子大学短期大学部協議会規程」「文化女子大学短期大学部外部評価委員会規程」の一部訂正を含め、改定されたことを受け、10 月の大学運営会議を経て、認証評価報告書の原稿執筆作業を開始した。これらについては、副学長を中心とした短期大学部認証評価推進委員会を立ち上げ、対処することとした。 【短】</p> <p>2. 平成 21 年度自己点検・評価活動の改善・深化 相互評価や外部評価を実施するための規程等が設けられ、現代文化学部で外部評価を実施した。他学部・短期大学部では、順次、実施環境の整備を図っているところである。 年次「自己点検・評価報告書」の作成では、短期大学部協議会・短期大学部教授会・大学院研究科委員会（生活環境学・国際文化）の項目を加え、本学ホームページでの公開を前提とした執筆依頼をした。 【共】</p> <p>3. 他の委員会との連携 「平成 21 年度自己点検・評価報告書」の執筆依頼に際して、全学 FD 委員会による「平成 19 年度全学 FD・SD 研修会分科会報告書」「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート集計結果」等の活用を呼びかけた。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 平成 22 年度短期大学の認証評価への対応 (1) 短期大学基準協会の認証評価を受けるため、短期大学部認証評価推進委員会との連携を諮り、「自己点検・評価報告書」の完全原稿の確認と提出 【短】 (2) 学内視察計画表の作成と訪問調査への対応等 【共】</p> <p>2. 他の委員会とのさらなる連携 全学 FD 委員会など、関連する学内他委員会との連携により、効果的な自己点検・評価活動を実施する可能性についてさらなる検討が必要である。 【共】</p> <p>3. 次なる認証評価に向けての対応検討 【共】</p>

検討組織名：全学自己点検・評価委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 21 日	1. 『平成 20 年度自己点検・評価報告書』について 書式の統一箇所、提出原稿の追記・訂正の依頼、編集スケジュールの確認 2. 平成 22 年度短期大学の認証評価にむけて 学内意思決定機関の組織図が検討中であることの報告、今後のスケジュール
平成 21 年 6 月 30 日	1. 『平成 20 年度自己点検・評価報告書』について 完成、配付の報告 2. 平成 22 年度短期大学の認証評価にむけて 学内意思決定機関の組織図、実施スケジュール、執筆分担の検討
平成 21 年 9 月 29 日	1. 平成 22 年度短期大学の認証評価にむけて 進行状況の報告、今後のスケジュール確認、執筆要領 2. 『平成 21 年度自己点検・評価報告書』について 執筆依頼スケジュール、依頼先の追加
平成 21 年 12 月 1 日	1. 平成 22 年度短期大学の認証評価にむけて 執筆依頼をしたことの報告、執筆に関するアドバイス、ページ数の目安 本委員会への執筆検討箇所 2. 『平成 21 年度自己点検・評価報告書』について 執筆依頼日と原稿締め切り予定日
平成 22 年 3 月 2 日	1. 平成 22 年度短期大学の認証評価にむけて 二次原稿の修正中、短期大学部認証評価推進委員会が組織されたことの報告 2. 『平成 21 年度自己点検・評価報告書』について 前書き、本委員会の報告内容、編集スケジュールの確認

<p>本年度の課題 (平成21年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全学FD・SD研修会の実施と次年度の企画 2. 授業方法の改善(P・D・C・A)の推進 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」報告書の作成と教育現場での活用 3. 各委員会との連携強化と活性化 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全学FD・SD研修会の実施 第1部は学長、3学部長の方針発表、平成20年度文部科学省の質の高い大学教育プログラム(教育GP)に選定された短期大学部服装学科の教育GPの教育目標・応募プロセス・教員体制・実施プロセス・学生の学習体験感想等の発表が行なわれ、各学部、学科の特色を活かした授業展開を行なうことの重要性が示唆された。 第2部の学科分科会では、「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」結果を題材に活発な意見交換がなされた。その報告書をもとに次年度の研修会資料として下記のようにステップを進めることができた。 2. 授業方法の改善(P・D・C・A)の推進 (1)「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」報告書の第一次計数統計型アンケートと記述式回答結果を各研究室に配信し、授業展開及びシラバス作成等にその活用を促した。 (2)各研究室室長に報告書の活用方法や個別の対応についてのアンケート調査を行ない、本委員会が集約した。その結果を今後の教育現場で活かすため、平成22年度のFD研修会の資料とする。 3. 各委員会との連携・情報交流の強化を図った。 また、教員の委員会活動の効率化のために、委員会組織の改編を提案し次年度改選時より実施されることとなった。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成22年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新しいFD委員会活動について 委員改選に伴う新体制スタート(月次委員会の開催・委員間のコミュニケーション) 2. 平成23年度「全学FD・SD研修会」の企画 3. 「学生による授業評価アンケート」結果から見た教員のあり方および学生指導のあり方の検討 4. 若手教員の育成のための環境整備と支援 5. 新委員会体制における全学FD委員会と各委員会との連携 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：全学FD委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 30 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員の紹介と今年度の委員会運営の展開について 2. 全学FD・SD研修会（平成 21 年 4 月 2 日実施）の報告 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の集計方法について 4. 平成 20 年度自己点検・評価報告書提出の確認
平成 21 年 6 月 3 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学運営会議報告 2. 全学FD・SD研修会（平成 21 年 4 月 2 日実施）の報告書のまとめ方について 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の自由記述に関するまとめ方について 4. 学生生活委員会からの提案「学生の質的变化」の講演会について
平成 21 年 7 月 17 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の自由記述のデータ化終了について 2. 委員会組織見直しについて 3. メンタルヘルスセミナー（平成 21 年 9 月 8 日開催予定）の協力について
平成 21 年 9 月 11 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンタルヘルスセミナー（平成 21 年 9 月 8 日実施）の反省について 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の自由記述分野の編集とフィードバックの仕方について 3. 委員会組織見直しについて 4. 平成 22 年度全学FD・SD研修会企画について
平成 21 年 10 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新都心キャンパスと小平キャンパスの遠隔会議システムによる会議の実施 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の記述式集計結果の活用法について 3. 委員会組織見直しについて
平成 21 年 11 月 18 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の活用に関して各研究室からの情報収集について 2. 平成 22 年度全学FD・SD研修会企画について
平成 21 年 12 月 22 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について室長宛にアンケートを作成 2. 平成 22 年度全学FD・SD研修会分科会の運営方法について
平成 22 年 1 月 13 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」室長アンケートのフォーマット質問項目について 2. 平成 22 年度全学FD・SD研修会、基調講演、分科会の組み合わせ・進め方について
平成 22 年 3 月 2 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」室長アンケートの集計について 2. 平成 22 年度全学FD・SD研修会のプログラムについて

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. コースへの進学希望者数の均衡をはかるため、調整方法や教育システムを検討する。【大】 2. 異動を希望する学生の対応に関する申し合わせについて、引き続いて検討する。【共】 3. 服装造形学科全コースによるファッションショーにむけて、作品製作指導担当者を適正配置する。【大】 4. USR(University Social Responsibility)推進を眼目としたプログラムを策定する。【大】 5. 「文化ファッション研究機構」の研究者として各教員は再登録し、共同研究に参画すると共に、科学研究費補助金の申請のより加速化を目指す。【共】 6. 「キャリアデザイン(展開編) コースセミナー」のプログラムを、6・9月に実施すべく具体化する。【大】 7. 教員構成の適正化を図るべく、次世代養成計画を立てる。【共】 8. 遠隔授業を具体化する。【共】 9. 入試制度、A0 入試のエントリーシート書式・センター試験利用入試の導入についての検討【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. コースへの進学希望者数の均衡をはかるため、コースの目標、カリキュラムに関する説明の機会を増やした。【大】 2. 学生異動の対応について、原則的な申し合わせ事項をまとめた。【共】 3. 服装造形学科全コースによるファッションショーにむけて、作品製作指導担当者を適正配置した。【大】 4. USR(University Social Responsibility)推進室を立ち上げ、卒業生調査・企業訪問調査を行い、プログラムを策定中である。【大】 5. 「文化ファッション研究機構」「文化・衣環境学研究所」の研究者として多くの教員が再登録し、研究に取り組んでいる。【共】 6. 「キャリアデザイン(展開編) コースセミナー」の学部共通のキャリアデザインプログラムとして、6月には森薫子氏による講演「30代を見据えたキャリアプランニング」、9月には辰巳芳子氏による「本当の大人らしい大人になるために」を実施した。【大】 7. 教員構成の適正化の方策の検討を進めるとともに、学内奨学金を活用する大学院進学を促すこととした。【共】 8. 遠隔授業による附属長野高校との高大連携授業は、前年の「ファッション画」に引き続き「ファッション講座2」において、実験的に行い成果を得た。【共】 9. 平成 23 年度入試について、A0 入試のエントリーシート書式は現行通りとし、センター試験利用入試を導入することとした。【大】
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各コースの希望者の動向を見極め、カリキュラムの内容とその運用について再検討する。【大】 2. 異動を希望する学生の状況把握と適切なガイダンスのあり方を検討する。【共】 3. USR 推進室の活動を各部門別に強化する。【大】 4. 服装学部ファッションショーの今後のあり方について、学内外の視点から点検、評価する。【大】 5. センター試験利用入試の導入にあわせて、入試制度・選考基準について再検討する。【大】 6. 学部・大学院・文化ファッション研究機構の関連で研究・教育の新しい方向性を探り、若手研究者の育成策を具体化する。【大】 7. 「服飾文化研究拠点」としての推進事業3年目のプログラムに、より積極的に参画する。【大】

検討組織名：服装学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 1 日	1. 新年度にあたって確認事項 入学生数、学生異動（転学・転学科・転学部など）に関する手続きの確認 「キャリアデザイン（展開編）- コースセミナー - ・コース別キャリアデザイン展開編」の予定 バザー委員会スタッフ、オフィス・アワーの実施体制、進学フェスタの日程 附属杉並高校・高大連携講座「ファッションデザイン」の実施計画 服装造形学科のファッションショー協力依頼 2. USR(University Social Responsibility)準備室立ち上げの予定
平成 21 年 4 月 30 日	1. センター試験利用入試申請（以下「センター試験」） 2. AO 入試作文課題の検討、進学フェスタにおける AO 入試説明会 3. 服装造形学科ファッションショーの報告 4. 学内研究発表会の日程、5. 学部 GP としての USR 推進室設立と運営 6. 「キャリアデザイン(展開編) - コースセミナー - 」の予定 7. FB 学会総会の予定
平成 21 年 6 月 9 日	1. 進学フェスタ報告・公開授業の予定 2. 「キャリアデザイン（導入編）- フレッシュマンキャンプ - 」報告 3. 学内研究発表会の世話役 4. USR 推進室準備状況報告 5. センター試験導入の検討 6. 「ファッションイラストレーション ・ 」カリキュラム変更案 7. 文化・衣環境学研究所の活動 8. 「キャリアデザイン」の学生アンケート実施
平成 21 年 7 月 14 日	1. 服装学部センター試験の方式・選定科目・日程等の考え方、 2. 教員免許更新講習の応募状況 3. 文化祭バザーのポスター発表
平成 21 年 9 月 8 日	1. AO 1 期入試エントリー状況 2. 服装学部センター試験の申請 3. 学内研究発表会要旨集配布 4. GP 申請の結果 テーマ A は不採択・テーマ B は採択 5. FB 学会全国大会 11 月に本学にて開催
平成 21 年 10 月 13 日	1. AO 1 期入試合格者数 2. 平成 22 年度フェスタ日程の検討 3. 服装造形学科・服装社会学科カリキュラムの変更案 4. 文化ファッション研究機構講演会 5. 文化・衣環境学研究所研究機器及び設置教室、教室調整見直し 6. ロビー階に学生相談室設置案 7. FB 学会全国大会の内容 8. FD 委員会より「学生によるカリキュラム・授業アンケート」の結果 9. 「キャリアデザイン展開編」講演会報告
平成 21 年 11 月 10 日	1. 文化祭報告 2. 推薦入試 1 次合格者数 入学事前教育プログラムの実施 3. USR 推進準備室の発足 4. FB 学会全国大会の案内 5. 東京都教職員研修センターからの「専門性向上セミナー」依頼 6. 平成 23 年度服装学部センター試験導入 7. 「キャリアデザイン」報告書作成予定 8. 第 22 回服装学部ファッションショーの企画 9. AO 入試ガイド・エントリーシートの検討
平成 21 年 12 月 8 日	1. 平成 22 年度入学者数現状報告 2. 「キャリアデザイン展開編」コースゼミナールの運営ガイドライン案の概要 3. AO 入試エントリーシートの内容検討 4. 文化・衣環境学研究所 C081 室完成 5. USR 推進室スタッフ及び計画案
平成 22 年 1 月 6 日	1. AO 入試 2 期合格者数・エントリーシートの検討結果 2. 東京都教職員研修センター「専門性向上セミナー」実施日程と担当者 3. 附属杉並高校・高大連携講座「ファッションデザイン」次年度の実施概要 4. 「キャリアデザイン展開編」コースセミナーの運営ガイドラインの現状報告
平成 22 年 2 月 8 日	1. AO 入試 2 期手続き者数・一般入試 A 日程合格者数報告 2. 卒業論文学長賞の展示担当者 3. 服装学科会議発足予定 4. AO 入試 1 期エントリー期間の検討 5. 進学フェスタに体験コーナー企画案
平成 22 年 3 月 2 日	1. 平成 22 年度入学手続き者数現状報告 2. 転学・転学科に関する申し合わせ 3. 資料「ヨーロッパファッション」の配布 4. 文化ファッション研究機構のテーマ採択予定及び研究員登録 5. 文化・衣環境研究所の動態観察機器講習 6. 平成 23 年度 AO 入試 1 期エントリー期間の変更 7. 進学フェスタの体験コーナー担当者

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活造形学科の新 5 コース編成が完成年度となるため、成果確認と次期改善計画の検討を行う。【大】 2. 住環境学科の新コースが平成 22 年度よりスタートするため、その教育内容の具体化を行う。【大】 3. 平成 22 年度より住環境学科の名称変更を行う事を受け、積極的な広報を行う。【大】 4. 入試方法の多様化による学生のニーズの相違に対応し得る授業方法の検討と改善を行う。【大】 5. 短期大学部生活造形学科の特色再確認と広報活動により入学希望者の獲得にも努力する。【短】 6. 造形学部、短期大学部生活造形学科共に「大学教育推進プログラム」の申請を行う。【共】 7. キャリア形成教育科目(学部 5、短大 3 教科)の体系化と具体的教育内容の点検・改善を行う。【共】 8. 「卒業生連携によるキャリア支援」の取組について効果が大きいため継続的に推進する。【大】 9. 学内研究発表会、造形学部プレゼンフォーラム、文化・住環境学研究所等の機会によって、教員の資質向上方策に積極的に取り組む。【共】 10. 卒業研究展、創作実習展、卒業研究優秀作品展等により学外発信の活動を推進する。【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活造形学科の新 5 コース編成の成果確認においては、教員アンケート調査の結果、コース選択時の学生ニーズに適合したコース編成となり、学科の授業内容の明確化ならびに入学者増にもつながり、成果を確認できた。学科の教育に関する次期改善計画については、今後検討する。【大】 2. 住環境学科の新コース(インテリアファブリックコース)が平成 22 年度よりスタートするため、講義・実習・演習科目ともに教育内容を具体的に検討した。コース希望者数も適切に受け入れてきた。【大】 3. 平成 22 年度より住環境学科の学科名を「建築・インテリア学科」に変更する件について、文部科学省に届出を行い受理された。これを受けた広報活動として、新学科の名称、教育体制ならびに特色等を明示した小冊子を作成・配布し、学内外に周知を図った。【大】 4. 入試方法の多様化による学生のニーズに対応し得る授業方法の検討と改善を行う件について、在学生対象に追跡調査を実施し、教授方法の改善ならびに入試面接における判定方法の改善に繋がった。【大】 5. 短期大学部生活造形学科の特色再確認と広報活動により入学希望者の獲得にも努力する件について、「創作実習展」でのプレゼンテーションやパンフレット制作等、新たな学外発信を試みた。【短】 6. 造形学部、短期大学部生活造形学科ともに「大学教育推進プログラム」申請を行なったが、採択には至らなかった。【共】 7. キャリア形成教育科目の体系化と具体的教育内容の点検・改善については、本年度に「キャリアデザイン(展開編) - コースセミナー -」が実施され、学部 5 教科の実施体制が整った。セミナー実施後の学生・教員対象のアンケート結果を受け、来年度向け実施企画と、科目体系の点検を進めている。【大】 8. 「卒業生連携によるキャリア支援」の継続的取組について、教育の場に卒業生を招くイベントを通算 12 回実施し、好評を得た。【大】 9. 学内研究発表会、造形学部プレゼンフォーラム、文化・住環境学研究所等の機会による教員の資質向上方策について、専門分野を越えた教育・研究への参加意欲が高まり、FD 活動として効果があった。【大】 10. 卒業研究展、創作実習展、卒業研究優秀作品展等による学外発信について、4000 名近い外部来場者があり、貴重なコメントも得られた。実施したアンケートを分析し、今後の参考とする。【共】
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 22 年度入学生から「建築・インテリア学科」がスタートするため、新しい教育課程の実施に積極的に取組むとともに、年次進行に応じた成果確認と改善検討を行う。【大】 2. 造形学部および短期大学部生活造形学科におけるアドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーについて協議し、教育体系の見直しならびに特色ある教育の発信に努める。【共】 3. 専門教育の特色を活かした「地域連携教育」「学科・コース横断型教育」を推進し、その成果を学外に積極的に公表する。【共】 4. キャリア形成教育科目の履修推進を軸とした学生の人間力向上方策に取り組むとともに、卒業生連携による「キャリア支援イベント」を継続的に実施する。【大】 5. 建築・インテリア学科のキャリア形成教育として「キャリア・アップ資格講座」を実施する。【大】 6. 入試方法の多様化による学生の資質の変化について、在校生を対象とした追跡調査を行い、その結果を教育方法の改善、入試判定方法の改善に繋げる。【共】

検討組織名：造形学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 3 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 造形学部新組織体制についての報告。 2. 新教育 GP (大学教育推進プログラム「テーマ A」) への申請についての報告。 3. 入試関係報告と本年度の課題についての協議。 4. 学生募集の定員数変更についての報告。 5. 住環境学科の名称変更手続と広報についての報告。
平成 21 年 4 月 28 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア形成教育科目の実施体制についての協議。 2. 「クリエイティブキャリア論 B」は、オムニバス形式で行うため教員への協力要請があった。 3. 大学教育 学生支援推進プログラム申請「テーマ B」についての報告
平成 21 年 6 月 9 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「キャリアデザイン (展開編) - コースセミナー - 」の日程、企画等の確定についての報告。 2. 新入生の入学後の追跡調査についての協議。 3. 造形学部 HP 携帯サイト立ち上げについての報告。
平成 21 年 7 月 14 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. サマーオープンカレッジ、進学フェスタ (4、5 回) A0 入試 1 期についての協議。 2. 学内研究発表会 (造形学部の部) についての協議。 3. 「クリエイティブキャリア論 B」の企画についての報告。 4. 平成 22 年度教育改善に向けて検討依頼があった。
平成 21 年 9 月 15 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 6 回進学フェスタについて、日程とイベント内容の協議。 2. A0 入試の採点評価についての方針の確認。 3. ポータルサイト利用の追再試発表について、実施上の問題点を報告するよう要請があった。 4. 大学 IT 小委員会より報告、来年度向けシラバスについて Web 入力とするとの報告があった。
平成 21 年 10 月 13 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学事前教育プログラムおよび来年度の進学フェスタについて方針の確認。 2. センター入試の役割担当についての提案があり了承された。 3. 「キャリアデザイン (展開編) - コースセミナー - 」及び「クリエイティブキャリア論 A・B」についての報告と、学生の履修指導について教員への依頼があった。 4. 造形学部予算措置品目の申請書類作成方法についての確認と依頼があった。 5. 平成 21 年度大学教育推進プログラムの申請結果についての報告。 6. 造形学部 建築・インテリア学科の学科名変更に伴うカリキュラム改訂案について承認された。
平成 21 年 11 月 10 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 22 年度向け事業計画及び学部共通経費予算申請についての予算申請内容の確認。 2. 平成 23 年度向けカリキュラム等の改善及び入学案内作成について検討の要請があった。 3. 事業計画に含まれる「地域連携教育」の活動事例についての報告。
平成 21 年 12 月 8 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 22 年度向 事業計画・予算申請についての報告。 2. 短期大学部生活造形学科 認証評価受審についての報告。 3. 文化学園理事会としての「中・長期計画」策定についての報告。 4. 「造形学部将来計画 WG」発足の協議。
平成 22 年 1 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「造形学部将来計画 WG」の活動についての報告。 2. 平成 22 年度 事業計画・予算計画についての報告。 3. 全学 FD 委員会による「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の活用協議。 4. 「キャリアデザイン (展開編) - コースセミナー - 」アンケート結果の報告。
平成 22 年 2 月 8 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 22 年度向入試情報と対策についての報告。 2. 平成 23 年度向入学案内作成についての協議。 3. 平成 22 年度シラバスの担当についての協議。
平成 22 年 3 月 9 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全学 FD 委員会実施の「授業アンケート」結果に対応する研究室回答に関する報告。 2. 平成 22 年度事業計画についての報告。 3. 「造形学部将来計画 WG」の活動報告

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学部共通科目のあり方に関するアンケート」の結果を分析し、総合教養科目の 2 単位化、外国語科目に対する満足度の向上方策、学力低下問題と総合教養科目の関連など、より具体的な問題について論議していく必要がある。 2. 教員構成の変化を見据えながら、教職課程とその関連科目、カリキュラムと担当者の配置など、中期的な計画の策定が必要とされる。 3. 進学フェスタ、文化祭などを通じた本学の総合教養、外国語、資格に関する教育の状況について、高校生・保護者へどのように発信するか再び検討作業を進める必要がある。 4. グループによる検討の状況や提起されつつある課題を整理するとともに、他大学の状況など、外部情報の収集を進めることとする。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学部共通科目のあり方に関するアンケート」の結果から課題別に検討のための小グループを 4 グループ設定し、第 1 グループが「総合教養科目」の単位数の検討をした。結果として、学部の「総合教養科目」は原則 2 単位となり学生の単位修得における要望に応えるものとなった<12 月度の教授会において承認された>。同時に、第 2 グループより卒業要件の変更(各系列 1 科目以上から 4 単位以上へ)が提案され、決定した<2 月度の教授会において承認された>。第 3 グループが外国語科目の満足度を上げるために、現行は学部の 2 年次に開設されている英語の S クラスを 1 年次から設定するシミュレーションを作成した。結果的には、平成 22 年度の学部 1 年生の英語は習熟度別クラス編成(S クラスとベーシッククラスの設置)を一部の学科で試行的に実施することになった。【大】 2. 教職課程の教員の異動により、関連科目における担当者の変更、補充が図られた。【大】 3. 進学フェスタの担当を本協議会へ異動となった 3 名と主任教授、担当教授の 5 名で行った。入試広報課と、広報用看板の内容変更と進学フェスタへの関わり方等についての検討に入った。 <p style="text-align: right;">【共】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. すでに解決済みの課題や継続審議の課題を整理し、継続審議の課題については他大学の情報を収集整理して本協議会の現状と対比して検討資料とした。【共】 <p>点検・評価</p> <p>本年度に課題として設定した事項は概ね達成された。特に、「総合教養科目」の原則 2 単位化は、長年懸案事項であったが、学生アンケートと他大学の情報収集の結果を元に検討を重ねた上で実現のはこびとなった。</p>
<p>次年度への 課 題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 語学の選択幅を広げるため、現行の語学の単位配分のあり方を見直す必要がある。【共】 2. 学部の一部の学科において試行的に英語を習熟度別クラス編成とするが、本格的に実行に移すための施設、時間割、担当教員の確保等の課題を克服する方策を検討する。【大】 3. 総合教養のあり方を検討してゆく過程で、休講中の科目についてはその存続の検討、継続する場合の内容の詳細等を検討する必要がある。【共】 4. 教育職員免許法、博物館法の改定に伴う科目構成の変化に対応して、教職員の配置等の検討を行う必要がある。【大】 5. 進学フェスタ、文化祭(特にグリル)等への参画の方法について検討する。【共】

検討組織名：学部共通科目協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 1 日	1. 新入メンバー紹介 荒井先生、佐藤先生、森谷先生、 2. 委員会報告 全学 FD・SD 委員会、学生生活委員会、教務委員会 3. その他 転学科について / 共学化について
平成 21 年 4 月 28 日	1. 小グループ報告 総合教養の 2 単位化へ他大学を調査中 / 全学科へ英語 S クラスを設定 2. その他 進学フェスタ / 学内研究発表会 / グリル担当 / センター入試 / 転学科の書類
平成 21 年 6 月 9 日	1. 委員会報告 全学 FD・SD 委員会、学生生活委員会、研究委員会 2. 小グループ報告 他大学の 1 科目当たり単位数の表を中心に協議 「中国語の世界」の履修状況を調査中、外国語の単位を検討中 3. その他 ポータルサイトの利用について
平成 21 年 7 月 14 日	1. 委員会報告 バザー委員会、学生生活委員会、文化祭グリル 2. 小グループ報告 総合教養の全教科に付き、2 単位化の妥当性を個別に検討 総開講単位数は減らさず科目の名称に「学」「論」を残す 3. その他 ポータルサイトの利用について / 進学フェスタについて
平成 21 年 9 月 8 日	1. 委員会報告 大学 IT 委員会（ポータルサイト、リポジトリ、図書館アーカイブ） 2. 小グループ報告 学長、学部長に 2 単位化への経緯と趣旨について報告書を提出 総合教養の一覧表から科目別に単位と名称の検討 3. その他 S 評価について / 新型インフルエンザについての注意
平成 21 年 10 月 13 日	1. 委員会報告 学生生活委員会 2. 小グループ報告 総合教養科目の科目名のサブタイトルについて 学部 1 年生への英語の S クラスの設定と外国語の単位数について 3. その他 文化祭グリルについて
平成 21 年 11 月 10 日	1. 委員会報告 教務委員会、バザー委員会、カリキュラム委員会 2. 小グループ報告 他大学の語学の設置状況と単位数の表から本学の現状の確認と協議 学部 1 年生の英語にベーシッククラスを設定した場合のシミュレーション 3. その他 文化祭グリルについて / 講義室の黒板の劣化について
平成 21 年 12 月 8 日	1. 委員会報告 常置委員会再編案についての協議 2. 小グループ報告 総合教養科目「原則 2 単位」(平成 21 年 12 月 8 日教授会承認) 学部 1 年生の英語に S クラスとベーシッククラスを試行的に設置 3. その他 書記の交代について
平成 21 年 1 月 6 日	1. 小グループ報告 1 科目当たり原則 2 単位化による、各系列の単位取得要件の変更 現行「各系列 1 科目以上」を「各系列 4 単位以上」とする (平成 22 年 2 月 8 日教授会承認) 3. その他 教職課程で事後教育が必修科目へ
平成 22 年 2 月 8 日	1. 委員会報告 教務委員会、IT 委員会 2. その他 小グループの再編成について / 進学フェスタのパネルについて / S 評価について

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康心理学科の再開については、十分な広報に努め、学生募集へとつなげる。 2. 国際文化学科のコース再編については引き続き検討する。 3. コミュニティーオープンカレッジの広報に努める。 4. 2 年目を迎える留学生別科の円滑な運営に努める。 5. 教員の研究活動を活性化させるため、委員会等のスリム化を検討する。 6. 研究室体制の充実化を検討する。 7. 「質の高い教育推進プログラム」(教育 GP) に国際ファッション文化学科として申請する。 8. 平成 22 年度より現代文化学部も「センター試験利用入試」の導入に対し検討する。 9. 現代文化学部の 3 つの学科を再検討し、学生募集につなげるように検討する。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 21 年 2 月教授会の決定に基づき健康心理学科の再編について検討を行なった結果、教育内容の一部を再編し、新学科名を「応用健康心理学科」とし、文部科学省に申請し、許可を得たので学生募集を開始した。 2. 国際文化学科の教育内容を見直し、現在 3 年次からのコースわけを平成 23 年度入学生より 2 年次から「国際文化コース」と「国際観光コース」に分けることを決定した。また、国際観光コースの科目見直しに着手した。 3. コミュニティーオープンカレッジは、小平市教育委員会の協力を得て、新聞折り込み広告等での広報を行い、延べ約 80 人の受講者があった。児童英語講座は、受講希望者が定員を上回り開講講座数を増やし好評であった。平成 22 年度は、本年度の反省を踏まえ、「ファッション講座」「応用健康心理講座」「国際文化講座」「英語講座」「ライフプランニング講座」「児童英語講座」の 6 講座を開講することを決定した。 4. 留学生別科は 2 年目を終え、15 名の学生が無事修了した。今後も多くの留学生を受け入れ、授業内容も充実させていきたい。 5. 委員会のスリム化が全学的に検討され、平成 22 年度より実施されるようになった。 6. 学生および教員間のコミュニケーションを図るため新研究室体制への移行を実施。「応用心理学研究室」「国際文化 A 研究室」「国際文化 B 研究室」「国際ファッション研究室」の 4 研究室体制が完了した。 7. 国際ファッション文化学科が、「質の高い教育推進プログラム」(教育 GP) に申請を行なったが、採択には至らなかった。より改善した取組を検討し、平成 22 年度の申請につなげる。 8. 今までの入試形態に加え、現代文化学部としてセンター試験利用入試の導入を決定した。 9. 現代文化学部の 3 学科の特長を強化し、ホームページやブログ等を活用し広報活動にも力を入れていく。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化学科のカリキュラムを再検討し、学生募集につなげるよう努力する。 2. 新研究室体制を効果的に活用し、現代文化学部の活性化を図る。 3. 現代文化学部の 3 学科の特長を活かし、学科間で共同研究を行い教育内容の向上に役立てる。 4. 学生募集活動のための、高校訪問・ホームページ・ブログ等の活用方針を検討する。 5. 英語だけではなく中国語も強化することを検討する。 6. 全学 FD 委員会の平成 21 年度授業アンケート集計結果に基づき、各研究室で討議・改善策を検討し、今後役に立てる。 7. 現代文化学部のアドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを広く社会に公表するために再検討する。 8. 留学生別科の広報活動を充実させる。 <p style="text-align: right;">【大】</p>

検討組織名：現代文化学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 1 日	1. 濱田副学長より現代文化学部の構想について報告
平成 21 年 4 月 6 日	1. 現代文化学部の学生数減少を踏まえ今後の打開策について検討 2. 応用健康心理学科の再編について検討 3. コミュニティーオープンカレッジの広報活動について
平成 21 年 4 月 28 日	1. コミュニティーオープンカレッジ開講にむけて確認 2. キャリアデザイン（導入編）- フレッシュマンキャンプ - について確認 3. けやき祭での学科展示・広報活動等について検討・確認
平成 21 年 6 月 16 日	1. 応用健康心理学科申請報告、学生募集用パンフレットの作成準備について検討 2. 高校訪問経過報告 3. 高校教員対象進学説明会について検討 4. 学生募集について、高校訪問・ホームページの活用を検討 5. 進学フェスタでの学生スタッフ動員を決定 6. けやき祭終了報告
平成 21 年 7 月 29 日	1. 3 学科主任教授による前期終了報告と今後の運営について 2. コミュニティーオープンカレッジ経過報告 3. 高校教員対象進学説明会終了報告 4. 附属杉並高校薔薇祭での学科展示について
平成 21 年 9 月 8 日	1. 応用健康心理学科申請許可報告および学生募集について 2. 後期開講のコミュニティオープンカレッジについて 3. 国際ファッション文化学科第 8 回シアトル親善交流ファッションショーについて報告
平成 21 年 12 月 8 日	1. 現代文化学部新研究室体制にむけて検討 2. ホームページ・ブログの活用について報告 3. 外部評価委員会について
平成 22 年 1 月 6 日	1. 新研究室体制にむけて移行行程等について説明
平成 22 年 2 月 10 日	1. 新研究室体制にむけて、引越し等について説明 2. 学生授業アンケート調査報告について各学科で検討・討議し、FD 委員会へ報告
平成 22 年 3 月 8 日	1. 平成 22 年度入学予定者について報告 2. 平成 23 年度カリキュラム再編成について討議 3. 新研究室体制での教員間での協力、3 学科の融合を検討

<p>本年度の課題 (平成21年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「文化ファッション研究機構」の研究員として各教員は再登録し、共同研究に参画すると共に、科学研究費補助金の申請の加速化を目指す。 2. 教員構成の適正化を図るべく、次世代養成計画を立てる。 3. 異動を希望する学生の対応に関する申し合わせについて、引き続き検討する。 4. 遠隔授業を具体化する。 5. 入試制度、A0 入試のエントリーシート書式・センター試験利用入試の導入について検討する。 6. 両学科の特色の再認識と広報活動により入学希望者拡充に努力する。 7. 服装学科は、「ファッションブランドビジネスモデルの構築」(教育 GP)の2年目のプログラムを推進し、生活造形学科としては「大学教育・学生支援推進プログラム」の申請を行なう。 8. キャリア形成教育科目の3教科の体系化と具体的教育内容の点検・改善を行なう。 9. 学内研究発表会、住環境学研究所等の機会によって、教員の資質向上方策に積極的に取り組む。 10. 創作実習展等により学外発信の活動を推進する。 <p style="text-align: right;">【短】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「文化ファッション研究機構」「文化・衣環境学研究所」の研究員として多くの教員が再登録し、研究に取り組んでいる。 2. 教員構成の適正化を図るべく、次世代養成計画を立てる。 3. 学生異動の対応について、原則的な申し合わせ事項をまとめた。 4. 遠隔授業による附属長野高校との高大連携授業は、前年の「ファッション画」に引き続き「ファッション講座2」において、実験的に行い成果を得た。 5. 入試制度、A0 入試のエントリーシート書式は現行どおりとし、センター試験利用入試の導入は見合わせることにした。 6. 両学科とも、「進学フェスタ」など広報活動に努力した。 7. 生活造形学科として「大学教育・学生支援推進プログラム」「『前に進む力』を引きだす新授業方式の構築」を申請した。 8. キャリア形成教育科目の3教科の体系化について検討するとともに、「キャリアデザイン(展開編) - コースセミナー - 」の充実を図った。 9. 学内研究発表会、住環境学研究所等の活動によって、教員の資質向上に取り組むことにした。 10. 教育 GP プレゼンテーション、ファッションショー、創作実習展、本学ホームページ等により両学科の情報を発信した。 <p style="text-align: right;">【短】</p>
<p>次年度への 課題 (平成22年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーについて協議し、教育体系の見直しならびに特色ある教育の発信に務める。 2. 専門教育の特色を活かした「地域連携教育」を推進し、その成果を学外に積極的に公表する。 3. 創立 60 周年を機に、両学科の特色を再確認し、広報活動を積極的に行い、入学希望者拡充を行う。 4. 両学科の教員の交流を図り、新しい短期大学部のあり方を深求する。 5. 両学科の共通科目の設定等、カリキュラムについて検討する。 <p style="text-align: right;">【短】</p>

検討組織名：短期大学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 1 日	1. 入学生数、学生異動（転学・転学科・転学部等）に関する確認 2. 「キャリアデザイン（展開編）-コースミナ-」の予定 3. 進学フェスタの日程 4. 教員作品展の出品 5. 教育 GP2 年目の推進 6. 附属杉並高校・高大連携講座「ファッションデザイン」実施計画 7. バザ-委員会スタッフ確認 8. 大学教育推進プログラム申請経過報告 9. 創作実習展の確認と担当決定
平成 21 年 4 月 30 日	1. 進学フェスタにおける A0 入試説明会の実施 2. 学内研究発表会の日程 3. 「キャリアデザイン（導入編）-フレッシュマンキャンプ-」「キャリアデザイン（展開編）-コースミナ-」の予定 4. A0 入試作文課題の検討 5. ファッションビジネス学会総会の予定 6. 大学教育推進プログラム申請の経過報告 7. 「キャリアデザイン（展開編）-コースミナ-」の教務課への提出書類についての報告と確認 8. 生活造形学科創作実習展について確認と担当決定
平成 21 年 6 月 9 日	1. 進学フェスタ及び夏オープンソングについての確認・報告 2. 公開授業の予定 3. 「キャリアデザイン（導入編）-フレッシュマンキャンプ-」報告 4. 「キャリアデザイン」の学生アンケート実施 5. 認証評価の実施スケジュール・基本的な考え方 6. 認証評価の文書原稿作成についての報告 7. センター試験利用入試導入の検討 8. 学内研究発表会の世話役 9. 文化・衣環境学研究所の活動 10. 生活造形学科創作実習展について企画検討 11. 補助事業成果報告書提出の報告 12. 大学改革の検討・実施状況報告書についての報告
平成 21 年 7 月 14 日	1. 認証評価について 2. 夏オープンソング（体験学習）について 3. 文化祭バザ-のポスター発表 4. 文化祭の教科展示について確認・合意 5. 学生の状況について確認し指導方針を合意 6. パターン・メキグ、販売能力検定試験の準備 7. 「キャリアデザイン（展開編）-コースミナ-」企画見積書の報告 8. 創作実習展の実施事項について確認
平成 21 年 9 月 8 日	1. A0 1 期入試エントリー状況 2. 学内研究発表会要旨集 3. 球技祭 4. 短大基準協会の認証評価説明会参加 5. 進学フェスタについての確認 6. 文化祭についての確認 7. 「キャリアデザイン（展開編）-コースミナ-」詳細について確認 8. 生活造形学科創作実習展について確認と合意 9. 入学案内について担当者で確認することで合意
平成 21 年 10 月 13 日	1. A0 1 期入試合格者数 2. 平成 22 年度フェスタ日程の検討 3. 文化ファッション研究機構講演会 4. 文化・衣環境学研究所研究機器及び設置教室 5. 教室調整見直し 6. 此階に学生相談室設置案 7. ボールルームの利便性 8. 全学 FD 委員会より「学生によるカリキュラム・授業アンケート」の結果 9. 認証評価のための報告書作成の手順説明・協力依頼 10. 次年度専攻科入学志願者の動向 11. 文化祭準備及び片付けの分担について合意・確認 12. 生活造形学科創作実習展の計画について確認 13. 入学案内についての方針等を確認し合意
平成 21 年 11 月 10 日	1. 文化祭報告 2. 推薦入試 1 次合格者数 3. 入学事前教育プログラムの実施 4. ファッションビジネス学会全国大会の案内 5. A0 入試ガイド・エントリーの検討 6. 平成 22 年短期大学部生活造形学科共通予算申請について報告・確認 7. 購買部と学生有志による「文化祭りナックル」制作」と販売状況の報告 8. 学生作品視察に文化祭へ渋谷区公園課職員が来校の報告
平成 21 年 12 月 8 日	1. 平成 22 年度入学者現状報告 2. A0 入試エントリーシートの内容検討 3. 文化・衣環境学研究所 C081 室完成 4. 専攻科ファッション案内 5. 認証評価についての報告 6. 生活造形学科創作実習展について詳細確認 7. A 館ウィンドウ展示について内容確認 8. 来年度カリキュラムについて確認
平成 22 年 1 月 6 日	1. A0 入試 2 期合格者数 2. エントリーシートの検討結果 3. 附属杉並高校・高大連携講座「ファッションデザイン」次年度の実施概要 4. 教育 GP「学生によるブランド発表会」公開審査会・発表会実施要領 5. 生活造形学科創作実習展詳細確認 6. 平成 21 年度大学教育推進プログラム審査結果報告 7. 文化女子大学造形学部への編入学状況の報告
平成 22 年 2 月 8 日	1. 平成 22 年度カリキュラム 2. 平成 23 年度入学案内校正 3. 平成 23 年度 A0 入試日程の確認 4. 進学フェスタに体験コーナー企画案 5. 転学希望者についての確認 6. 教育 GP「学生によるブランド発表会」公開審査会・発表会報告 7. 学長賞及び展示担当 8. 生活造形学科創作実習展実施の詳細について確認 9. 生活造形学科 1 年生への 2 年次履修に関するガイダンスについて検討
平成 22 年 3 月 2 日	1. 平成 22 年度入学手続き者数現状報告 2. 転学・転学科に関する申し合わせ 3. 資料「ヨーロッパファッション」の配布 4. 文化ファッション研究機構のテーマ採択予定及び研究員登録 5. 文化・衣環境研究所の動態観察機器講習 6. 服装学科・生活造形学科研究室の整備 7. 次年度体制の確認

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院生活環境学研究科博士前期・修士・博士後期各課程・専攻別に年間のスケジュールを明確にし、オリエンテーションに始まる平常の授業・指導はもとより、大学院セミナー、文化祭、修士論文発表会、博士論文公聴会等を充実させ、教育・研究の成果をあげることがまず第 1 の課題である。 2. 更に教育内容の向上を図るべく、大学院教育・研究の現状を分析し、大学院教育の課題の抽出と課題解決に向けた対策・方法について、教員内部の議論を深め、本学としてのディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを確定することを本年度の課題とした。 3. 大学院の国際化対策として今年度新設した授業「Giving Presentations in English」(英語によるプレゼンテーション)の成果が期待される。 4. 大学院の他大学連携対策としては、昨年から準備を進めてきた信州大学と本学との連携による「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」を信州大学から申請する予定である。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度予定した大学院関連行事はいずれも盛会裏に終了し、十分な教育的効果をあげる事ができた。セミナー参加学生は 42 名、このうち 17 名が修士論文または博士論文の中間報告に対する活発な議論が行なわれ、2月の論文発表会の成果につながったと考える。セミナーの帰途立ち寄った富岡製糸場での講演・見学も充実したものであった。大学院生の視野を広げるための特別講義のテーマ「ユニバーサルデザイン」では、特任教授を含め他大学・企業からの幅広い陣容による授業がなされ、極めて有意義であった。 2. 大学院セミナーの期間中に大学院担当教員の集中的ミーティングを行い、大学院教育・研究の現状と課題・その対策について検討。これを受けて本学の大学院生活環境学研究科としての DP、CP、AP を明文化することができた。しかし、内容的なつめがやや不足していると共に、理想と現実のギャップにいかに対応するか等細部に関する検討は不十分であるとする。 3. 大学院生の国際力アップを目的に新設した英語の授業については、かなりの成果をあげる事ができた。しかし、英語による専門科目の開講等は不十分であり今後に残された課題である。 4. 信州大学から申請された「戦略的大学連携支援プログラム」は残念ながら不採択であった。しかし、その取り組みに向けて議論し、作文した内容は今後も生かしてゆく価値があるとする。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>次年度への 課 題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間予定事業の遂行による教育・研究成果をあげることは基本である。次年度もオリエンテーション、大学院セミナー、文化祭、博士論文・修士論文発表会・作品展示会の開催を軸とした、より質の高い事業を推進する。 2. 大学院研究科担当教員の密な連携・議論を通して、常に現状における教育・研究上の課題を明確にしなが、その対策について協議し、質の高い、かつより具体的イメージを伴う DP, CP, AP を構築することが課題である。学生の質向上に向けては、次年度より特別奨学金制度の発足が決定している。この制度が有効に機能することによって、優秀な大学院生の確保が可能となるが、これに対する教育内容の高度化が課題である。 3. 大学院授業の国際化については、次年度以降その特別対策委員会を発足させ、院生の語学環境（英語・中国語等）の充実化対策、専門授業の英語による開講、海外提携大学との交換留学制度等の具体化に向けて推進することが課題である。 4. 他大学・他企業との連携研究・教育については、信州大学との連携を中心に推進すると共に、企業との連携研究に大学院生を積極的に関与させるリサーチアシスタント制度の有効活用が次年度以降の課題である。 <p style="text-align: right;">【大】</p>

検討組織名：大学院生活環境学研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成21年4月15日	1.新委員の承認 2.大学院セミナーにおける見学の決定 3.リサーチ・アシスタントの制度発足を承認 4.平成21年度科学研究費補助金採択結果報告 5.信州大学と生活環境学研究科との連携を承認 6.平成21年度生活環境学特別講義A・Bを承認 7.平成20年度私立大学教育研究高度化推進特別補助報告書完成報告。平成20年度で事業は終了したが、内容的には今後も継続することを承認。 【被服環境学専攻委員会】 1.新委員の承認 2.専攻講座名の変更を承認 3.カリキュラムの検討
平成21年5月13日	1.大学院セミナーの日程及び内容を確定 2.文化女子大学リサーチ・アシスタント規程(案)について審議 3.生活環境学特別講義A・Bの内容・講師について調整 4.新任教授・特任助教を承認 5.信州大学から本学との連携による「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」を申請 6.その他 学位論文要旨集、大学院生の文化祭展示に関する件等
平成21年6月17日	1.大学院パンフレットについてカリキュラム及び担当教員等を検討 2.文化女子大学リサーチ・アシスタント規程(案)を承認 3.大学院セミナーについてセミナーの詳細を決定 4.生活環境学特別講義A/Bの講師変更について承認 5.文化祭展示担当者(教員)の検討 6.「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に申請(報告)
平成21年7月1日	1.大学院パンフレットの改定 2.大学院教育実質化状況調査について検討。自己点検・評価及びFDについて平成21年度より大学院を追加することを承認 3.D49大学院自習室の内装整備及びインターネットの環境整備を図ることを承認 4.文化祭展示担当教員を決定
平成21年7月22日	1.平成22年度大学院セミナーにむけて検討 2.被服学専攻の専攻分野及び入学試験科目の変更、被服環境学専攻・被服学専攻の新設科目及び科目名変更について承認。生活環境学専攻の専攻分野名の変更について承認。
平成21年9月9日	1.被服学専攻の専攻分野名の変更及び生活環境学専攻の入学試験科目の変更について承認。 2.平成21年度リサーチ・アシスタントについて承認。
平成21年10月7日	1.大学院入試1期判定 2.カリキュラムについて 生活環境学専攻建築・インテリア学分野のカリキュラムは「建築士受験の大学院における実務経験の確認申請書」の審査結果を受け改めて審議 3.平成21年度ティーチング・アシスタントの担当者変更について承認 4.文化女子大学大学院特別奨励金規程に基づく申請について 大学院入試2期終了後の申請分と併せて審議 7.修士論文説明会について 8.文化祭について
平成21年11月11日	1.修士論文発表会の日程の決定 2.平成22年度カリキュラムについて 生活環境学専攻のカリキュラム変更及び被服学専攻の担当教員の変更を承認 3.文化祭展示の報告
平成21年12月9日	1.平成22年度大学院セミナーについて 日程及び内容の確認 2.「建築士受験の大学院における実務経験の確認申請書」の確認結果報告 3.平成21年度被服学特別研究及び生活環境学特別研究の研究計画書提出状況について報告
平成22年1月27日	1.修士論文の審査教員を決定 2.修士論文発表会の司会等担当教員を決定 3.抄録集の媒体及び内容を検討 4.平成22年度生活環境学研究科委員会日程を決定 5.平成22年度生活環境学特別講義A・Bの担当教員を決定 6.特任教員の採用及び継続について承認。 7.平成21年度リサーチ・アシスタントについて承認 8.生活環境学専攻の修士論文研究展の開催について承認 【被服環境学専攻委員会】 1.博士論文審査教員の決定 2.公聴会・口頭試問の決定
平成22年2月22日	1.平成21年度被服学・生活環境学専攻修了判定 2.卒業式の代表者を決定 3.平成21年度大学院活動報告書の担当者及び作成部数等を決定 4.平成22年度生活環境学特別講義A・Bの日程及び担当者を検討 等
平成22年2月26日	1.平成22年度担当教員の変更を承認 2.文化女子大学大学院特別奨励金規程に基づく申請による受給候補者を決定 3.平成22年度ティーチング・アシスタントを承認 4.平成22年度リサーチ・アシスタントを承認 【被服環境学専攻委員会】 1.博士論文最終審査 2.平成21年度被服環境学専攻修了判定 3.平成23年度採用分特別研究員の募集について告知

検討組織名：大学院国際文化研究科委員会

報告者：根岸 愛子

提出日：平成 22 年 3 月 31 日

本年度の課題 (平成 21 年度)	1. 共通の学位たる「国際文化学」に関し、3 専修に跨る共通の科目設定について検討する。 2. 国際文化学科観光文化コース卒業生の受入れに関し、カリキュラムを検討する。 3. 学生募集について再考すべきところがある。大学院の広報について検討する。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
取組の結果と 点検・評価	1. 共通の学位たる「国際文化学」に関し、3 専修に跨る共通の科目設定について (1) 国際文化専修で開講されている英語で行なわれている授業を積極的に履修するように指導した。今後も外国語（英語）による授業の設定を検討する。 2. 国際文化学科観光文化コース卒業生の受入れに関し、カリキュラムを検討 (1) 観光系担当教員を通して進学について確認を行なった。（次年度観光分野への進学希望者なし） 「国際文化学」の学位の中でどの程度の規模で科目を設定するか継続的に検討する。 3. 学生募集について再考すべきところがある。大学院の広報について検討。 (1) 研究科紹介のパンフレットを作成する。 (2) 過年度の修士論文をパネル化して展示する。 (3) けやき祭のときに研究科紹介のパネル展示を行なった結果、興味を持ってもらう機会として成果はあった。映像資料の活用等について検討を進める。 (4) 修士論文報告会（6 月 27 日）を映像資料として残し、広報の素材とする。 (5) 社会人も学生募集の対象として広報を検討する。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
次年度への 課 題 (平成 22 年度)	国際文化学科観光文化コースから大学院への進学者に対するカリキュラムを検討する。 1. 国際文化研究科の PR 方法について検討する。 2. 学生が研究しやすい体制を検討していく。 3. 大学院研修会のあり方について検討を進める。 <p style="text-align: right;">【大】</p>

検討組織名：大学院国際文化研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 7 日	1．平成 21 年度国際文化研究科 TA 申請について 2．修士論文報告会について 3．国際文化研究科の今後について
平成 21 年 5 月 12 日	1．けやき祭について 2．大学院の広報について 3．観光文化の科目設定について
平成 21 年 6 月 9 日	1．けやき祭の反省点について 2．研究会や論文発表会の映像資料化 3．論文の副査、副指導員について
平成 21 年 7 月 7 日	1．国際文化研究科研修会の反省点 2．平成 22 年度大学院入試 1 期問題作成について
平成 21 年 9 月 10 日	1．平成 22 年度大学院入試 1 期問題作成について
平成 21 年 10 月 13 日	1．これからの大学院のあり方について
平成 21 年 11 月 10 日	1．これからの大学院のあり方について 2．平成 22 年度大学院入試 2 期問題作成について
平成 21 年 12 月 15 日	1．平成 22 年度大学院入試 2 期問題作成について 2．次年度カリキュラム検討について
平成 22 年 1 月 19 日	1．平成 22 年度大学院入試 2 期問題作成について 2．修士論文の面接、判定、発表会について
平成 22 年 2 月 19 日	1．平成 21 年度修了判定について 2．学位授与代表者選出について

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 平成 20 年度より継続の事項 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討</p> <p>2. 見直し事項 (1) 授業日程(平成 21 年度用)の修正(必要な場合) (2) 授業日程(平成 22 年度用)の検討 (3) 卒業要件の変更</p> <p>3. その他 (1) 「S」評価導入後の評価状態の検討 (2) 現行の年間行事の実施と授業時数確保を両立するために生じる様々な問題の検討 (3) 学生の質の多様化から生じる様々な問題の検討</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 平成 20 年度より継続の事項 (1) 以下の規程について見直しと改定を行った。 文化女子大学私費外国人留学生授業料減免に関する規程【共】 文化女子大学教授会規程【大】 文化女子大学短期大学部教授会規程【短】 文化女子大学学部協議会規程【大】 文化女子大学短期大学部協議会規程【短】 全学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程【共】 平成 22 年度文化女子大学委員会一覧表に基づく委員会規程【共】</p> <p>(2) 以下の規程について新規に定めた。 文化女子大学外部評価委員会規程【大】 文化女子大学短期大学部外部評価委員会規程【短】 文化女子大学リサーチ・アシスタント規程【大】 文化女子大学・文化女子大学短期大学部競争的資金(公的研究費)の取り扱い要領【共】</p> <p>2. 見直し事項 (1) 授業日程(平成 22 年度用)の検討 年間行事の実施と授業時数の確保を中心に授業日程を決めることができた。【共】 (2) 卒業要件の変更 平成22年度より総合教養科目(服装学部・造形学部)の2単位化に伴う履修上卒業要件の変更。 【大】</p> <p>3. その他 (1) 「S」評価導入後の評価状態の検討 「S」評価採点の基準に科目間で差が生じないよう、採点状況を確認し検討を行った。【共】 (2) 現行の年間行事の実施と授業時数確保を両立するために生じる様々な問題の検討 平成 22 年度については例年通り確保したが、補講日の確保は年々困難になってきている。【共】 (3) 文化女子大学・文化女子大学短期大学部における助教・助手の任期に関する規程及び細則、文化女子大学・文化女子大学短期大学部教員昇任・昇格及び任期制助手・任期制助教に関する申合せ事項について検討したが、結果、平成 22 年度へ継続審議となった。【共】 (4) 学生の質の多様化から生じる様々な問題については次年度も継続して検討する。【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 継続事項 (1) 新委員会一覧表に基づく「規程集」各項の見直しと改定、及び新規規程案の検討 (2) 「S」評価導入後の評価状態の検討 (3) 文化女子大学・文化女子大学短期大学部における助教・助手の任期に関する規程及び細則、文化女子大学・文化女子大学短期大学部教員昇任・昇格及び任期制助手・任期制助教に関する申合せ事項について検討</p> <p>2. 見直し事項 平成 22 年度授業日程の修正(必要な場合)と平成 23 年度授業日程の検討</p> <p>3. その他 (1) 授業時数確保と年間行事実施の両立から生じる諸問題の検討 (2) 学生の質の多様化から生じる諸問題の検討</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：教務委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 21 日	1. 委員の異動に伴う新委員の紹介 2. 書記担当委員の異動に伴う新書記の選出、及び今年度名簿の確認 3. 「S」評価導入についての確認
平成 21 年 5 月 26 日	1. 「S」評価導入についての確認
平成 21 年 6 月 30 日	1. 文化女子大学私費外国人留学生授業料減免に関する規程について 2. 文化女子大学・文化女子大学短期大学部競争的資金（公的研究費）の取扱要領について 3. 文化女子大学リサーチ・アシスタント規程について (1・2 平成 21 年 7 月 14 日 教授会承認)
平成 21 年 9 月 29 日	1. 文化女子大学教授会規程について 2. 文化女子大学短期大学部教授会規程について 3. 文化女子大学学部協議会規程について 4. 文化女子大学短期大学部協議会規程について 5. 文化女子大学外部評価委員会規程について 6. 文化女子大学短期大学部外部評価委員会規程について (1～6 平成 21 年 10 月 13 日 教授会承認)
平成 21 年 10 月 27 日	1. 「S」評価の基準について 2. 平成 22 年度授業日程表について
平成 21 年 11 月 25 日	1. 文化女子大学における助教・助手の任期に関する規程細則について 2. 文化女子大学短期大学部における助教・助手の任期に関する規程細則について
平成 21 年 12 月 15 日	1. 平成 22 年度授業日程表について（平成 22 年 1 月 6 日 教授会承認） 2. 文化女子大学における助教・助手の任期に関する規程について 3. 文化女子大学短期大学部における助教・助手の任期に関する規程について 4. 文化女子大学における助教・助手の任期に関する規程細則について 5. 文化女子大学短期大学部における助教・助手の任期に関する規程細則について 6. 文化女子大学・文化女子大学短期大学部 教員昇任・昇格及び任期制助手・任期制助教に関する申し合わせ事項について 7. 平成 22 年度文化女子大学委員会について
平成 22 年 1 月 19 日	1. 文化女子大学における助教・助手の任期に関する規程、及び規程細則等について (平成 21 年 12 月 15 日の議題 2～6) 2. 総合教養科目（服装学部・造形学部）2 単位化に伴う履修上の卒業要件の変更願について（平成 22 年 2 月 8 日 教授会承認） 3. 平成 22 年度文化女子大学委員会規程について
平成 22 年 2 月 9 日	1. 平成 22 年度文化女子大学委員会一覧表に基づく委員会規程について 2. 全学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程について 3. 平成 21 年度「自己点検・評価報告書」及び「会議等の開催記録」の執筆要領について 4. 文化女子大学における助教・助手の任期に関する規程、及び規程細則等について (平成 21 年 12 月 15 日の議題 2～6) (1・2 平成 22 年 3 月 2 日 教授会承認) (4 平成 22 年 3 月 2 日 教授会にて取り下げ。平成 22 年度継続審議となった)
平成 22 年 3 月 16 日	1. 平成 21 年度「自己点検・評価報告書」及び「会議等の開催記録」の最終確認

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の質的变化に対するケアの問題 ひきつづき学生に対する質的变化の問題を、しっかりと学習・認識・対応ができるような支援体制を整える。また全学に働きかけ、学生生活委員会からいくつかの提案を行っていく。 2. 学内巡回の徹底 学内におけるマナー（指定場所以外や時間での喫煙、ごみの投げ捨て、エレベーター内の飲食、無断駐輪、廊下の座り込みなど）について指導や巡回の対処法を検討。 3. 各種行事内容の見直し 本学特有の行事（球技祭、文化祭、けやき祭、各種リーダーズトレーニングなど）をより充実したものにするための検討。 4. 学生生活調査と報告書作成の検討 学生の現状にあうように、質問項目の修正や削除、追加などの校正作業について検討。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の質的变化に対するケアの対策 9月にメンタルヘルスセミナーを開催し、専門の先生方から事例や症状、対応策講演を行った。その中から具体策として、たとえばオリエンテーション期間に新入学生と、在学生と一緒に集う時間を設けたり、教員と学生が気楽に談話できるスペースを設置するなど、今後学生に対してきめ細かい指導ができるよう検討が必要である。 2. 学内巡回の徹底 徹底した巡回により、タバコの吸い殻や、教室のゴミなどもかなり減少した。 3. 各種行事内容の見直し (1) オリエンテーション期間中にロビー階において大型モニターでクラブ紹介、また春夏期間に AD 画廊で各クラブ紹介のポスター掲示、さらに新入生歓迎会後の体験入部を行うことによって、多くのクラブで部員数の増員につながった。 (2) リーダーズトレーニングを月例部長会後に行うことで、スケジュールのコンパクト化を図り、内容はシンポジウム形式に変更、クラブ部長の代表からの現状報告と問題提起により、学生自らが問題を意識し、グループディスカッションへと発展させ、活発な意見交換や、アイデアの提案が行われた。ディスカッションで出てきたいくつかのアイデアは実現できるよう検討していく。 (3) 文化祭バザー売上金の一部学生会への還元により経済的支援を行った。 4. 学生生活調査と報告書に関する取り組み 現状に見合うよう調査票の質問項目を見直し、設問の訂正や追加を行い、前回同様、在校生に対してのみ実施し、調査時期を4月のオリエンテーションとする。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会改組による学生支援委員会の体制作り 留学生を含めた全学生に対する学生支援という立場から、新たなサポート体制の検討。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 学生の心的ケアに対し、教職員がどのように学生に対応し、学習や生活支援を行っていくか、その有効な方法を検討。 3. 学内巡回の徹底 学内におけるマナー（指定以外の場所や時間での喫煙、ごみの投げ捨て、エレベーター内の飲食、無断駐輪、廊下の座り込みなど）について指導や巡回の対処法を検討。 4. 各種行事内容の見直し 本学特有の各種行事内容をより充実したものにするための検討。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：学生生活委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成21年4月21日	1. 今年度の活動方針 2. その他
平成21年5月26日	1. 平成21年度学生会リーダーズトレーニング(案) 2. 緑道・学内巡回指導について 3. 文化女子大学奨学金について 4. 総合学生生活委員会報告 5. 学生相談室について 6. その他
平成21年6月20日	1. 緑道・学内巡回指導結果報告 2. 学生相談室について 3. 総合学生生活委員会報告 4. その他
平成21年7月28日	1. 学生相談室について 2. 総合学生生活委員会報告 3. その他
平成21年9月29日	1. 学内巡回指導について(文化祭期間中・後期) 2. 第15回学生生活調査について 3. その他
平成21年10月27日	1. 学生生活調査について 2. 学内巡回指導について(文化祭期間中) 3. 学生相談室について 4. 総合学生生活委員会報告 5. その他
平成21年11月24日	1. 学生生活調査について 2. 学内巡回指導について(後期) 3. 学生相談室について 4. 総合学生生活委員会報告 5. その他
平成21年12月22日	1. 学生生活調査について 2. クラブリーダーズトレーニングについて 3. 学生会サミット報告 4. 緑道・学内巡回指導結果報告 5. 学生相談室について 6. 総合学生生活委員会報告について 7. その他
平成22年1月19日	1. 学生生活調査について 2. 学生相談室について 3. 総合学生生活委員会報告 4. その他
平成22年2月23日	1. 学生生活調査について 2. クラブリーダーズトレーニングについて 3. 学生相談室について 4. 総合学生生活委員会報告 5. その他
平成22年3月16日	1. 学生支援委員会への申し送り事項について 2. 学生相談室について 3. 総合学生生活委員会報告 4. その他

検討組織名：研究委員会

報告者：畠山 紀子

提出日：平成 22 年 3 月 23 日

本年度の課題 (平成 21 年度)	<ol style="list-style-type: none">1. 教員の研究活動を活性化するために、発表の場として教員研究作品展を開催する。2. 教員研究作品展の作品集を発行する。3. 研究室の専門領域を踏まえた研究・教育の基本図書を購入する為の予算を検討し、配分を行う。4. 教員研修講演会のあり方について検討する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
取組の結果と 点検・評価	<ol style="list-style-type: none">1. 第 24 回教員研究作品展を文化クイントサロンにて開催し、作品制作を中心に研究を行っている教員の研究成果を発表する場を提供した。 作品展には沢山の来場者があり、広く学内外に研究活動の成果を発表することができた。2. 第 24 回教員研究作品展の出品作品について撮影を行い、作品集(第 11 集)を発行した。3. 研究室の研究・教育の為の基本図書購入予算を検討し、配分を行った。 研究室図書費の配分額は、役職に係わらず構成人員数に対し均等額を配分する事として金額を決定した。尚、重点配分図書は、高額図書として図書館が委託・管理を行うこととした。4. 本年度は、日程・講師・講演内容等の調整がつかず開催されなかった。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
次年度への 課 題 (平成 22 年度)	<ol style="list-style-type: none">1. 教員研究作品展を引き続き開催する。より多くの出品者を募り、本学の教員の研究成果を学内外に発表する機会を設ける。 来年度の開催場所の確保がむずかしい状況にあり、早急に検討を要する。2. 作品集(第 12 集)の発行に向けて準備を行う。3. 研究室図書の充実化を図る為に予算を確保し、公平にそれを分配できるように検討する。4. 教員研修講演会については、他の委員会との連携を深め、内容等の検討をする。5. 小平キャンパスに於ける研究発表会のとりまとめについて、新都心で行われている方式で行う事ができないか検討する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：研究委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 9 日	1. 研究室図書費について 2. 教員研究作品展作品集第 11 集について
平成 21 年 5 月 12 日	1. 教員研究作品展作品集第 11 集について 2. 平成 21 年度研究室図書費案について（平成 21 年 6 月 9 日教授会承認）
平成 21 年 6 月 30 日	1. 研究室図書係会終了 高額図書の図書館申請について 2. 教員研究作品展作品集第 11 集予算について
平成 21 年 9 月 29 日	1. 平成 21 年度研究室図書費について 2. 教員研究作品展作品集第 11 集について 3. 教員研修講演会について
平成 21 年 10 月 27 日	1. 教員研究作品展作品集第 11 集について 2. 平成 21 年度高額図書費の申請内訳について（平成 21 年 10 月 13 日教授会承認） 3. 小平キャンパス学内研究発表会について
平成 22 年 1 月 19 日	1. 教員研究作品展作品集第 11 集配布 2. 第 25 回教員研究作品展予備登録について 3. 平成 21 年度研究室図書費購入状況について
平成 22 年 2 月 23 日	1. 第 25 回教員研究作品展最終登録について 2. 小平キャンパス学内研究発表会終了 3. 平成 22 年度以降の高額図書費について
平成 22 年 3 月 15 日	1. 第 25 回教員研究作品展について（ポスター・DM 完成。目録構成・搬入・撮影について） 2. 自己点検・自己評価提出書類について

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1.カリキュラムの充実 平成 22 年度実施に向けて、服装学部・造形学部・現代文化学部・短期大学部より提出されたカリキュラムの改定(内容変更・新設・削除)および調整に関わる、授業科目の開設、科目名の検討、授業科目の種類・単位数・年次配当の検討、時間割配置の確認、編入学による既修得単位の認定の確認、シラバスの表記方法の検討を行い審議する。それに関わる、提出書類の書式統一および提出最終期限の設定を行うなど効率化を検討する。</p> <p>2.「コラボレーション科目」の充実 平成 20 年度にまとめたアンケート調査結果報告書により明らかになった課題について、解決策を講ずる。特に意義・目的の周知徹底が急務と考えて、対処する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1.カリキュラムの充実 (1) 服装学部服装造形学科では、新カリキュラムの完成年度を迎えたことで、コース別専門科目の見直しを行い改定した。結果、各コースの領域や教育目標がより明確となった。【大】 (2) 服装学部服装社会学科服装社会学コースでは、「社会調査士」資格取得可能な科目を開設しているが、平成 19 年度入学生にも門戸を広げた。また、服飾文化コースのファッション文化専攻では、学生数の増加傾向を考慮し、専門教育科目の多様化を図った。【大】 (3) 造形学部住環境学科では、学科名称変更(建築・インテリア学科)に伴い必修科目を学科名と連動させた名称に変更した。【大】 (4) 現代文化学部では、学部共通基礎教養科目および専門教育科目について見直しを行い、改善を図った。また、応用健康心理学科新設にあたりカリキュラムの編成を行った。【大】 (5) 服装学部と造形学部の総合教養科目では、通年科目を半期化することにより科目数の増加や制度上のメリットを鑑み、併せて学生資質の変化に対応して、カリキュラム改定を行った。【大】 (6) 教職に関する専門科目では、「教育職員免許法施行規則」の改正に伴い、科目の新設と既存科目の削除を行った。【大】 (7) 編入学による既修得単位の認定確認を行ったが、認定方法について検討の必要性を感じた。【共】 (8) カリキュラム改定に関する提出書類の書式統一および提出最終期限について明確にした。これまで提出方法と内容について定めていたが、期限や書式の統一がされていなかったため、学科全体のバランスを図る作業に手間取っていた。結果、的確に手順を踏むことで、全体のコンセンサスが得やすく、しかも迅速な教務手続きが可能となった。【共】</p> <p>2.「コラボレーション科目」の充実 科目の意義・目的の周知については、ガイダンスや履修要項により徹底した。また、シラバスの構成を改善したが、卒業要件の単位数に関わる諸問題は解消までに至らなかった。【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1.カリキュラムの充実 総合教養科目と専門科目の単位数および期間の見直し、各々の協議会から提出され当委員会で精査しているが、改めて学校全体の単位数・期間などの状況を把握したうえで、学年・学期毎にカリキュラム編成などを確認・検討する必要がある。その他、科目内容や時間割など幅広い範囲におけるカリキュラム上の潜在する問題について情報を集め、検討事項として取り上げていく。そのことにより、学部・学科を越えて全体のカリキュラムについて、更なる充実を図る。 【共】</p> <p>2.「コラボレーション科目」の充実 平成 20 年度のアンケート調査報告書で顕在化した課題のうち、卒業要件の単位数に関する問題、科目の種類や数の不足、履修方法に関する課題が残っている。引き続き検討事項とする。【共】</p>

検討組織名：カリキュラム委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 5 月 12 日	1. 今年度のカリキュラム委員会の活動について 『自己点検・評価報告書』にあげた「次年度の課題」項目の検討 (1) カリキュラムの充実 (2) コラボレーション科目の充実
平成 21 年 6 月 2 日	1. 「カリキュラム変更に関する書類提出についてのお願ひ」及び記載例案の検討
平成 21 年 6 月 30 日	1. 服装学部服装造形学科のカリキュラム改定の検討 2. 「コラボレーション科目」の充実課題の検討 (1) 科目の意義・目的の周知徹底方法 (2) 卒業要件単位数の負担感解消 (3) 科目と種類の数
平成 21 年 7 月 29 日	1. 平成 21 年度小平カリキュラム小委員会の方針について
平成 21 年 9 月 7 日	1. 各ブロックのカリキュラム改定の動向について 2. 「コラボレーション科目」の充実課題の検討 (1) シラバス構成 (2) 履修方法 (3) 評価
平成 21 年 9 月 30 日	1. 現代文化学部にて新規開設する応用健康心理学科のカリキュラムの検討 (平成 21 年 10 月 20 日教授会承認)
平成 21 年 10 月 20 日	1. 服装学部・造形学部における総合教養科目のカリキュラム改定の検討 2. 服装学部服装造形学科のカリキュラム改定の検討 3. 服装学部服装社会学科のカリキュラム改定の検討 審議事項 3. (平成 21 年 11 月 10 日教授会承認)
平成 21 年 10 月 26 日	1. 服装学部服装造形学科のカリキュラム改定の検討 2. 服装学部・造形学部における総合教養科目のカリキュラム改定の検討 3. 「コラボレーション科目」のシラバス記入項目(案)の検討
平成 21 年 11 月 17 日	1. 服装学部・造形学部における総合教養科目のカリキュラム改定の検討 2. 服装学部服装造形学科のカリキュラム改定の検討 3. 造形学部住環境学科(平成 22 年度建築・インテリア学科へ名称変更)のカリキュラム改定の検討 (平成 21 年 12 月 8 日教授会承認)
平成 21 年 11 月 24 日	1. 現代文化学部における学部共通基礎教養科目についてカリキュラム改定の検討 2. 現代文化学部図書館司書課程のカリキュラム改定の検討 (平成 21 年 12 月 8 日教授会承認)
平成 21 年 12 月 15 日	1. 各ブロックからの質疑事項とその対応
平成 22 年 1 月 19 日	1. 教育職員免許法施行規則改正に伴う教職に関する専門科目のカリキュラム改定の検討 (平成 22 年 2 月 8 日教授会承認)
平成 22 年 2 月 23 日	1. 平成 21 年度『自己点検・評価報告書』にあげた「今年度の課題」項目の成果確認 2. 平成 22 年度『自己点検・評価報告書』にあげる「次年度の課題」項目の検討
平成 22 年 3 月 17 日	1. 平成 22 年度『自己点検・評価報告書』の執筆内容の確認 2. カリキュラム委員会引き継ぎ事項(案)の検討

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 査読制度導入の可否・方法の検討 2. 完全原稿の定義・注意事項の徹底 3. リポジトリへの掲載推進とフォローアップ 4. 論文と研究ノートの定義の周知推進 5. 非常勤講師の投稿認可の検討 6. 入札可能な印刷会社の選定 7. 表紙デザイン・サイズの改定 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紀要編集委員会での試験的査読実施・査読結果の書類様式検討 問題点・疑問点がある場合、拡大委員会を開催し検討（本年度対象なし） 2. 他大学・各学会の投稿規程を収集し、検討 3. 原稿全投稿者がリポジトリへの掲載を許諾 掲載拒否のケースが発生した場合は紀要編集委員会にて個別に検討する体制 4. 教授会での告知 5. 非常勤講師の投稿可を確認 時間的制約により非常勤講師の方々への伝達は不十分であった 6. 前年度は入札に至ったのは 1 社であったが、複数社が望ましいため、本年度 3 社からの入札 7. 必要経費も含め検討継続 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 非常勤講師を含めた投稿者数増大の推進 2. 査読制度の実施・運用 3. 論文と研究ノートの定義の周知推進 4. 投稿規程におけるデータ（テキスト・写真・図表等）の提出方法について検討 5. 印刷部数の検討 6. 表紙デザイン・サイズ改定 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：紀要編集委員会「服装学・造形学研究」

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 21 日	1. 紀要第 41 集 編集スケジュール確認 2. 予備登録用書類の確認 3. 第 40 集執筆者アンケート結果、査読に関するアンケート結果の確認
平成 21 年 5 月 26 日	1. 紀要第 41 集 編集スケジュール確認 2. 予備登録および予備登録用書類の確認
平成 21 年 6 月 30 日	1. 紀要第 41 集 予備登録一覧の確認 2. 紀要第 41 集 助言者の担当案の決定、助言者制の適用についての確認 3. ネイティブチェック についての確認
平成 21 年 7 月 21 日	1. 紀要第 41 集 助言者の確認、本登録用紙の配布対象についての確認 2. 投稿者向け配布書類の確認 3. 査読制度の導入に関する検討
平成 21 年 9 月 18 日	1. 講師以下の原稿提出締切り、助言者への原稿渡し 2. 紀要第 41 集 本登録の確認 3. 編集スケジュール確認
平成 21 年 10 月 20 日	1. 投稿者より原稿受取り、印刷業者入札 2. 編集スケジュール確認 3. 配布数調査、印刷部数の確認
平成 21 年 12 月 7 日	1. 印刷業者より初校受取り、表紙・背表紙の確認 2. 査読制度の導入に関する検討
平成 21 年 12 月 15 日	1. 初校の回収および印刷業者への戻し、再校スケジュール確認 2. 「電子化及びインターネット公開許諾書」についての確認
平成 22 年 1 月 13 日	1. 再校の回収および印刷業者への戻し 2. 「紀要編集専門委員会規程（改定案）」の内容確認 3. 査読制度の導入に関する検討
平成 22 年 1 月 26 日	1. 三校の確認および印刷業者への戻し 2. 配布書類の確認 3. 査読制度の導入に関する検討
平成 22 年 2 月 16 日	1. 印刷業者より見本刷り上りの受取りおよび確認、納品・配布スケジュール確認 2. 平成 21 年度「自己点検・評価報告書」「会議等の開催記録」作成についての確認 3. 査読制度の導入に関する検討
平成 22 年 2 月 23 日	1. 紀要第 41 集の納品と配布、抜き刷り・PDF データ受取についての確認 2. 平成 21 年度「自己点検・評価報告書」「会議等の開催記録」作成についての確認 3. 投稿規程におけるデータ提出方法等に関する検討
平成 22 年 3 月 5 日	1. 平成 21 年度「自己点検・評価報告書」「会議等の開催記録」作成についての確認 2. 投稿規程におけるデータ提出方法等に関する検討 3. 来年度の編集スケジュール案についての確認 4. 第 41 集執筆者アンケート結果の確認

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 「研究紀要」の質的水準を高めること。 「研究紀要」はその大学の教員の研究水準や実力が外部にはっきりと現われ出るものであり、その大学の評価に繋がる。内容の質を高めねばならない。</p> <p>2. 質を高めるために従来から一種の査読制を採っているが、査読や助言が学問的誠意であることのコンセンサスを作る。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 大学の「研究紀要」は投稿すれば必ず掲載されるというのでは質的水準を高めることは望めないと考え、従来から一種の査読制をとってきたが、その成果を更に充実させるためには、適切な、信頼できる査読者かつ助言者の獲得が必要である。学内でその人材を求めることは専門によっては容易だが、専門家がいけない場合は学外から求めねばならないが、そのことは未だ殆ど出来ていない。</p> <p>2. 本学の「研究紀要」の投稿規程では執筆者を原則として専任教員に限っているが、従来から非常勤講師にも発表の場を開放してきた。このことは守られている。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課 題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 論文の質を高めるための更なる工夫が必要である。そのためには専門の知識において信頼でき、尊敬できる査読者・助言者を獲得しなければならない。その助言に従って論文を書くことが自分の学問向上にも、大学の研究の質的向上にもなることを認め、そのためのシステム作りをする必要がある。</p> <p>2. 今後は執筆者として専任教員のみならず、非常勤講師、新体制の助教や助手、さらに教員ではないが研究に携わっている者などを想定しなくてはならない。しかしながら、そのことで学問的水準が低下せぬように注意しながら、更にきめ細かい査読や助言の在り方を考える必要がある。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：紀要編集委員会「人文・社会科学研究」

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 6 月 30 日	1. 予備登録の確認 専任教員と非常勤講師の論文・研究ノートの本数の割合を確認。
平成 21 年 10 月 7 日	1. 投稿論文の確認 2. 第 1 回査読者の選定
平成 21 年 10 月 21 日	1. 第 1 回査読の結果報告 各委員が査読の結果を委員会で報告。 2. 第 2 回査読者の選定 第 1 回の査読で問題のあった論文・研究ノートを第 2 査読者に依頼する。(拡大紀要編集委員会)
平成 21 年 10 月 27 日	1. 第 2 回査読の結果報告 第 2 査読者が結果を委員会で報告。 2. 第 3 回査読者の選定 第 2 回の査読で問題のあった論文・研究ノートを第 3 査読者に依頼する。 3. 第 3 回査読以外の論文・研究ノートの中で掲載論文の決定。
平成 21 年 11 月 19 日	1. 第 3 回査読の結果を踏まえ、掲載論文の最終決定を行い、掲載順を決定する。 印刷スケジュールについて印刷業者と打ち合わせを行う。
平成 22 年 1 月 13 日	1. 執筆者より戻された初校ゲラのチェック
平成 22 年 1 月 26 日	1. 執筆者より戻された再校のチェック
平成 22 年 2 月 3 日	1. 三校を委員でチェック 訂正のある原稿を後日ファックスでチェックし校了。 2. 印刷部数、抜刷部数、送付先、納品日の確認を行う。
平成 22 年 3 月 23 日	1. 第 18 集発行に関する反省会 2. 次期委員会への申し送り事項の検討

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職履修生の質的变化にどのように対応し指導するか。 2. 教職履修生の精査のための審査項目と基準。 3. 教職履修生が教育実習において教科指導、生徒指導などに支障なく取り組めるように、基礎的な学力と実践力を身につけるための取り組み。 4. 教育実習認定評価の基準。 5. 学内の協力体制確立。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の基礎的・専門的学力、教職への意志に個人差がみられるので、面談等を行い、個別指導体制で臨むことにより、学生の多様性に応じる指導ができるようになった。 2. 審査項目である意志、人物、成績によって審査を実施した。客観的判断基準の作成は困難なため、学生個人を総合的に判断する必要性にせまられた。 3. 教職に関する専門科目の担当者の相互理解と情報共有が、学生の指導力向上にも寄与するものと考えられた。 4. 今年度は問題無く終了したが、今後の課題として残された。 5. 教科教育担当者だけでなく、専門の教員との協力の下に、なお一層の指導が必要であると確認された。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>次年度への 課 題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の質的变化に伴う指導対応。継続課題。 2. 学生の審査、教育実習認定評価の基準など、選抜、評価に関する検討。 3. 教職課程の具体的目標の確認。 4. 学内の協力体制と相互理解のさらなる充実。 5. 新設科目「教職実践演習」の準備。 <p style="text-align: right;">【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 5 月 19 日	1. 平成 22 年度教育実習生審査
平成 21 年 7 月 28 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 21 年度教育実習中間報告 2. 平成 21 年度介護等体験の概要
平成 21 年 12 月 22 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 21 年度教育実習生単位認定審査 2. 平成 21 年度教育実習の反省 3. 平成 21 年度介護等体験報告および反省 4. 平成 22 年度教育実習の予定

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 全国大学博物館学講座協議会東日本部会大会・総会（平成 20 年 11 月 14 日 於大東文化大学）において、学芸員課程の科目数変更に関しては「9 科目 19 単位」案で改正されることがほぼ確定。さらに平成 21 年 2 月の「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」の第 2 次報告書で示されたように、法改正による新しいカリキュラムに移行していくための検討と準備を最大の課題として、平成 23 年度までに確定できるように幅広い検討・準備を進めていく。</p> <p>2. 課程履修生の質の向上のため、履修ガイダンスの形をさらに検討していく。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 文部科学省による省令改正（平成21年4月）により、新たな学芸員養成科目と履修単位が決定された。</p> <p>学芸員課程専門科目変更の内容は、すべて省令による指定科目となり、単位数も増すものである。現在の博物館法による 8 科目12単位が、一部科目名変更と新設 1 科目が加わり、9 科目19単位の必修となったことを受け、新科目を含む全科目の年次配分やガイドラインに沿った博物館実習のあり方などについて再検討をする必要性が確認された。特に年次配分については、学習者の理解と段階を踏んだ学習のあり方が大切であり、本件が実施される平成24年4月に向けて、検討していくこととなった。</p> <p>具体的には、従来 3、4 年次に配分されていた必修の専門科目の一部を 2 年次に配分することも視野に、新たなカリキュラム構成の検討を進めていくことになる。これは文部科学省が省令改正で意図した「質の高い学芸員養成」のための検討事項のテーマに含まれるものであり、ひとつの成果となったと考える。</p> <p>2. 課程履修生の質の向上のため、履修ガイダンスの形をさらに検討していくことについては、ガイダンスにおいて、さらに学芸員の業務内容を具体的に情報発信するなど、博物館におけるさまざまな情報を幅広く伝えてきた。課程履修生の博物館についての意識の向上も大切な項目であり、講義科目以外の事象に対しての博物館関連の情報も博物館情報として意味のあるものであり、幅広い情報発信を心がけてきたことは、課程履修生の理解と意識を高めていくことに役に立ったと考える。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 新カリキュラムに沿った科目の適切な年次配分についての検討と、履修単位増に関係する時間割の検討。</p> <p>2. 新たに制定される学芸員養成科目に関する文部科学省からのガイドラインを参考に、博物館実習と指導のあり方の検討。 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 7 月 2 日	1. 省令改正による新課程科目に関する変更の確認と、学内教授会での状況報告の承認について
平成 21 年 12 月 8 日	1. 改正学芸員科目の確認と手続きについて 科目名の変更（指定科目名にする） 配当年次の変更について 新課程の扱い全般 経過措置 旧科目の継続などの資料配布 学部共通科目協議会に提示する時期
平成 22 年 1 月 13 日	1. 委員会統合による一部委員会規程の見直しについて

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新コース編成に伴い、資格希望者が分散されるため、定員に対する履修指導・試験対策等の指導員の確保が必要である。 2. 資格取得希望者の増員による「テキスタイルアドバイザー（以下「TA」）実習」のための企業開拓および実習時期の再検討を行う。また、実習時期に伴う事前教育および事後教育の実施日を検討したい。 3. 平成 20 年度末に 2 年生に TA 取得希望調査を行った結果、1 級資格取得希望者は 64 名・2 級は 79 名となり、いずれも定員を上回っている。1 級・2 級の定員数の検討が必要である。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4 年生の TA 1 級の資格取得希望者は機能デザインコース 35 名・テキスタイル企画コース 16 名で、最終合計は 49 名となった。2 級の希望者は 44 名であった。新コース編成に伴い、1 級の資格取得希望者が増加し、2 級希望者に減少の傾向が見られる。1 級の資格取得希望者に対する履修指導を強化し、試験対策として外部講師による集中特別講義や模擬試験を実施したことで効果をあげることができた。また、委員の増員を行い各コースの指導を強化した。 2. 「TA 実習」の実施時期はカリキュラム変更に伴い、3 年生での 2～3 月の実施が困難なため、4 年生で 8～9 月の実施とした。今年度は 3 年生と 4 年生の混合であったが、次年度より 4 年生（一部 3 年）となる。4 年生で実施することは、TA 必修科目の履修がほぼ済んでいることがメリットである。実習企業の開拓により 2 件増やしたため、資格取得希望者増員に対する対応ができた。 「TA 実習」の事前教育は時間割の都合により 3 回に分けた。「TA 実習とは・実習にあたっての心得」「TA に期待されるもの」「消費者中心のマーケティングと品質管理」について指導と講演を行い、大変有効であった。 事後教育として実習の報告会を 10 月 1 日に行った。3・4 年生全員での報告会は、大変有意義で効果的であった。 3. 本学の TA の定員は 1 級 30 名・2 級は 60 名であるが、現状は 1 で示したとおりである。定員数の調整を必要とするが、調整には至っていない。その理由として、1・2 級合計人数での対応が認められていることがあげられる。 4. 今年度の 1 級における衣料管理協会会長賞は、各コースから 1 名ずつの受賞となった。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定員に対する履修指導・試験対策等の指導員は委員の増員により一部改善はされたが、まだコースごとの指導員と資格取得希望者の人数に偏りがあるため検討を要する。 2. 「TA 実習」のための企業開拓は今年度 2 件増やしたが、1 級資格取得希望者増加のため、さらに開拓が必要である。また、事前教育・事後教育については、実施日を検討する。 3. TA 取得に関する選択科目である「テキスタイル品質管理論」は、4 年次開講であるが、「TA 実習」の前に受講したほうが効果的であることから、平成 22 年度より 3 年次後期の開講に変更を希望した。さらに、カリキュラムや開講年次の変更など検討が必要である。 4. 平成 22 年度の資格取得希望者は、コース決定の際に希望調査を行った。その結果、3 年次の 1 級資格希望者は 54 名、2 級は 97 名となりいずれも定員数を上回っている。次年度も引き続き定員数の検討が必要である。また、実習企業について今後増やせない場合には、1 級においても GPA の成績や 2 年次までの TA 必修科目の単位を取得しているなどの資格取得の履修条件を検討事項とする。 <p style="text-align: right;">【大】</p>

検討組織名：衣料管理士課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 6 日	衣料管理士資格に関するガイダンス（1 年生対象）
平成 21 年 4 月 22 日	第 1 回委員会 1．役割分担と業務日程の検討 2．事前教育の日程と内容の検討 3．1、2 級履修者数の確認
平成 21 年 5 月 27 日	第 2 回委員会 1．事前教育スケジュール案の検討 2．実習先、実習生の検討 3．大学正会員年次報告書の見直し
平成 21 年 6 月 25 日	第 3 回委員会 1．大学正会員年次報告書の確認 2．実習関連の報告と確認
平成 21 年 7 月 2 日 7 月 9 日 7 月 16 日	TA 実習事前教育 委員長、副委員長より実習の心得 講師による講演「TA に期待されるもの」 講師による講演「消費者中心のマーケティングと品質管理」
平成 21 年 7 月 16 日	第 4 回委員会 1．実習関係について (1)事前教育の欠席者について (2)実習先挨拶担当決め (3)事後教育のスケジュールについて
平成 21 年 8 月 3 日 ～9 月 11 日	TA 実習期間（うち 5 日間実習）1 級 3、4 年生実施 実習先への挨拶
平成 21 年 9 月 8 日	臨時委員会 後期授業案の確認
平成 21 年 9 月 24 日	資格取得のための授業： オリエンテーション（1、2 級 4 年生）
平成 21 年 10 月 1 日	TA 実習事後教育 「実習報告会」（1 級 3、4 年生）
平成 21 年 10 月 1 日	第 5 回委員会 1．実習先挨拶の報告 2．指定科目の時間割確認
平成 21 年 10 月 8 日 15 日 22 日 29 日 11 月 12 日 19 日 26 日 12 月 3 日 10 日	資格取得のための授業： 「論文」試験の要点解説 資格取得のための授業： 「論文」模擬試験 資格取得のための授業： 「論文」個別指導 1 資格取得のための授業： 「論文」個別指導 2 資格取得のための授業： 外部講師による「消費科学」の要点解説（1 級） 委員による「消費科学」の要点解説（2 級） 資格取得のための授業： 「消費科学」模擬試験 資格取得のための授業： 「消費科学」個別指導 1 資格取得のための授業： 「消費科学」個別指導 2 資格取得のための授業： 「論文」本試験
平成 21 年 12 月 15 日	「衣料の使用実態調査」（日本衣料管理協会主催）の説明（1、2 級 3 年生対象）
平成 21 年 12 月 17 日 24 日	資格取得のための授業： 「消費科学」本試験 資格取得のための授業： 「消費科学」本試験
平成 22 年 1 月 14 日	資格取得のための授業： 衣料管理士資格取得に関する手続き等の説明
平成 22 年 1 月 14 日	第 6 回委員会 1．委員会規程の確認 2．協会賞の検討
平成 22 年 1 月 22 日	「衣料の使用実態調査」回収、協会へ送付
平成 22 年 3 月 4 日	実習企業との事前打ち合わせ、実習生 2 名と委員長、副委員長が実習先へ訪問
平成 22 年 3 月 8 日	第 7 回委員会 1．「自己点検・評価報告書」および「会議等の開催記録」の確認 2．来年度の課題について
平成 22 年 3 月 8 日 ～15 日	TA 実習（1 企業のみ）1 級 3 年生実施

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 学科名称変更に伴う建築士受験資格要件のカリキュラム認定への対応 (1) 平成 22 年度の入学生を対象としたカリキュラムの確認。 (2) 申請内容を変更する場合は、変更申請書類の作成・提出。 2. 学生の資格取得状況の調査およびその結果に基づく資格取得支援対応策の見直し (1) 学生の資格取得状況のアンケート調査を実施する。 (2) 資格取得のためのガイドラインについて検討する。</p> <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 学科名称変更に伴う建築士受験資格要件のカリキュラム認定への対応 (1) 学科名称変更に伴うカリキュラム変更内容の確認 (2) 平成 22 年度の入学生を対象としたカリキュラム認定の申請書類提出。 2. 学生の資格取得状況の調査およびその結果に基づく資格取得支援対応策の見直し (1) 住環境学科 2～4 年次を対象に、各資格の受験状況および結果についてアンケートを実施した。 (平成 21 年 3 月(卒業生対象) 4 月(在校生対象)) (2) 調査結果を学科会議で報告し、資格取得対応策について検討。 3. 学科名称変更に伴う委員会規程の改正内容確認 4. 大学院修士課程における建築士のカリキュラム認定への対応 5. 二級建築士カリキュラム認定の定時報告。(平成 21 年 4 月) 6. 在校生の商業施設士補の申請手続き</p> <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 学生の資格取得支援対応策の実施 (1) 資格取得対策講座の開講 2. 新カリキュラムの年次進行に伴うカリキュラム認定への対応 (1) 平成 22 年度以降の入学生を対象としたカリキュラムの確認。 (2) 申請内容を変更する場合は、変更申請書類の作成・提出。 3. 大学院修士課程における建築士のカリキュラム認定への対応</p> <p style="text-align: right;">【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 3 日	1. 在校生・資格取得状況アンケート調査の実施について
平成 21 年 6 月 11 日	2. 学科名称の変更に伴う、委員会名称の変更について
平成 21 年 9 月 8 日	1. 学科名称の変更に伴う、建築士試験の受験資格要件の見直しについて 2. 平成 22 年度入学生を対象とした申請内容と担当の確認 3. 大学院修士課程における建築士のカリキュラム認定への対応
平成 21 年 10 月 20 日	1. 資格取得状況アンケート調査結果報告 2. 資格試験の受験状況と今後の資格取得対策について
平成 22 年 1 月 29 日	1. 在校生の商業施設士補の申請手続きについて

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 現代文化学部(小平キャンパス)に設置されている司書課程を新都心キャンパス所属の学生も平成 19 年度から履修が可能となった。司書資格取得を希望する全学生が効率よく履修可能なカリキュラム・時間割が構築できるよう、継続して検討する。</p> <p>2. 文部科学省令の改正に伴い、現行の 14 科目 20 単位が、13 科目 24 単位に移行されることとなった。これに対応した移行計画を検討、策定し、必要なものから実施する。</p> <p>3. 文化女子大学の特色である「ファッション」に関する文献や、社会情勢の変化に対応できる司書養成のために、更に授業内容の創意・工夫を進める。</p> <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 司書課程の時間割を精査し、集中授業を 4 科目に増やした(情報サービス論を新都心キャンパスで実施)。その結果、新都心キャンパスから平成 20 年度 10 名(主に 2 年生)平成 21 年度 8 名(主に 2 年生)が受講した。</p> <p>2. 改正科目では、選択科目が 5 科目から 7 科目に増加した。本学では現在、選択科目が 3 科目開講されているが、時代の要請に対応できる司書を養成するための情報収集に努めた。</p> <p>3. ファッション分野の海外資料の書誌に精通した図書館員が文化学園図書館に育ちつつあるが、まだ講義が出来るまでには至っていない。</p> <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>次年度への 課 題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 司書課程履修者を増やすことが大きな課題である。特に新都心キャンパスの学生の受講生を増やす方策を検討する。</p> <p>2. 平成 24 年度新入生から改正新カリキュラムが施行される。平成 22 年度はより踏み込んだ検討を行いたい。</p> <p>3. 全学部の学生が履修できるようになったので、服飾文化を始め新しい科目も取り入れ、魅力ある授業内容を構築したい。</p> <p>4. 公共図書館に司書として就職を希望する学生の進路指導も大きな課題である。</p> <p style="text-align: right;">【大】</p>

検討組織名：司書課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 3 日	1. 司書課程 ガイダンス内容の再確認
平成 21 年 4 月 6 日	1. 小平キャンパス ガイダンス実施 現代文化学部 1 年生 2. 新都心キャンパス ガイダンス実施 造形学部 服装学部 1～3 年生
平成 21 年 4 月 7 日	1. 新都心キャンパス ガイダンス実施 造形学部 服装学部 1～3 年生
平成 21 年 4 月 8 日	1. 小平キャンパス ガイダンス実施 現代文化学部 2・3 年生
平成 21 年 4 月 18 日	1. 受講生の授業の反応・反省点等について
平成 21 年 5 月 16 日	1. 集中授業について
平成 21 年 6 月 2 日	1. 改正司書養成科目に関する説明会に参加(文部科学省)(平成 21 年 9 月 5 日教授会報告)
平成 21 年 6 月 27 日	1. 司書課程の今後の教員人事体制について協議
平成 21 年 6 月 29 日	1. 司書課程履修者一覧を検討、42 名で前年比 12 名減、対策協議
平成 21 年 8 月 7 日	1. 今後の教員人事体制について再協議、林学部長面談
平成 21 年 10 月 13 日	1. 平成 22 年度司書課程時間割について協議
平成 21 年 10 月 23 日	1. 平成 22 年度司書課程時間割について教学課と調整
平成 21 年 12 月 5 日	1. 平成 22 年度カリキュラム編成について
平成 21 年 12 月 12 日	1. 平成 22 年度司書課程時間割計画について、新都心キャンパス学生に説明
平成 22 年 2 月 19 日	1. 平成 22 年度司書課程時間割について教学課と調整
平成 21 年 3 月 20 日	1. 平成 21 年度司書課程専門委員会 自己点検・評価報告書のまとめについて

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修旅行 プログラム C については従来 2 コースを成立させるだけの履修者があったが、履修人数が減少傾向にあるため、今後は 2 コースで実施できるかを検討していく必要がある。</p> <p>2. 海外留学 現行の文化女子大学留学規程には、平成 20 年度に発生したような留学先の変更等は想定されていなかったため、そのことに関する記述がない。早急に明文化する必要がある。</p> <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 文化・語学研修旅行 (1) 各プログラム実施状況 プログラム A (米国ベルビューカレッジ 15 名) 実施 プログラム C (イタリア・パリコース 28 名、ロンドン・パリコース 27 名) 実施 プログラム E (関西 9 名) 実施</p> <p>2. 海外留学 (1) 文化女子大学留学規程の文言改定は行っていない。 (2) シモンズ大学については応募者がなかった。 (3) 海外私費留学生はベルビューカレッジへ 1 名が留学。</p> <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修旅行 (1) プログラム C については、登録の段階から 2 コースに分けて募集することに検討。引き続き 2 コース体制維持のための努力と検討を続けたい。 (2) プログラム E は平成 21 年度もぎりぎりの催行人数であった。研修の動機付けにさらに努めたい。</p> <p>2. 海外留学 (1) シモンズ大学への派遣プログラムについては両大学間の条件面においてシモンズ大学の教務担当者との間で毎回齟齬が生じているので、対策を講じる必要がある。</p> <p style="text-align: right;">【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 6 月 16 日	1. 文化・語学体験プログラム C の実施方法について、2 コースに分けるか検討
平成 21 年 7 月 7 日	(小委員会) 1. 平成 21 年 9 月～平成 22 年 3 月ベルビューカレッジに留学希望の学生に対する面接および委員会への答申
平成 21 年 7 月 7 日	1. ベルビューカレッジへ留学を希望する学生を教授会に推薦することを決定 2. 文化・語学体験プログラム C についてイタリア・パリ、ロンドン・パリコースを 1 つにまとめた場合の見積もりを取り検討
平成 21 年 9 月 26 日	1. 文化・語学体験プログラム A (シアトル) の報告 2. 文化・語学体験プログラム C について履修登録者を追加募集し、2 コース実施について決定

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 日本語教育実習を履修する学生の配分について 教育実習については、受講生における以下の条件を検討し、有効な教育実習の方向を検討する。</p> <p>(1) 小平キャンパスに留学生別科が開設したことにより身近に初級日本語教育の現場が出現した。日本語教員養成課程にとって大きなメリットなので、十分に授業にいかす方策を検討する。</p> <p>(2) 日本人学生 4 名、留学生 3 名が実習をすることになる。それぞれの実習校について検討を行う。</p> <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 日本語教育実習を履修する学生の配分の検討</p> <p>(1) 本学部日本語教育担当教員が学部と留学生別科の授業のため、時間的に新都心キャンパスに行く余裕がなく、文化外国語専門学校における実習教室を指導することは難しくなっている事情がある。平成 21 年度 4 月より文化女子大学留学生別科に初級日本語学習者が 15 名在籍しているので、留学生別科における実習を大規模に展開することを検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生別科のクラスにおいて授業見学と教壇実習を行った。教壇実習のクラスは正規のクラスではなく、放課後別科の学生たちに残ってもらう形で行い、それぞれの学生が 50 分の教壇実習を行った。内容は別科の学生のニーズに合っていると思われるものを選び、会話中心の授業を行った。本学学生にとっては貴重な教壇実習の体験となり、別科の学生にとっては学部留学生と知り合う機会となった。 ・3 年次生で日本語教員を目指している学生からの要望により留学生別科の授業見学を後期に定期的に行った。別科の学生にとっても日本人学生との触れ合いの機会となった。 <p>(2) 日本人学生 4 名のうち 1 名は中学 1 年次に来日した韓国系学生である。日本語力に多少の不安があったため、実習をどのように行うか検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人学生 3 名は例年協力を依頼しているイーストウエスト日本語学校において実習を行った。昨年度の学生は実習態度に多少の問題があったと後で伺ったが、今年度の学生は全員積極的な取組を見せ、日本語学校の先生からお褒めの言葉を頂いた。 ・韓国系日本人学生 1 名と留学生 3 名は本学日本語担当教員の指導の下で、留学生別科において実習を行なった。留学生 3 名は日本語能力も高く、日本語教員養成課程の専門科目の授業にも大変積極的に臨んできた学生たちであり、別科の学生とのコミュニケーションもとても上手に行い、有意義な実習となった。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 平成 22 年度日本語教育実習を履修する学生の配分について 平成 22 年度の教育実習については、受講生における以下の状況、来年度の留学生別科の状況などを鑑み、来年度 4 年次履修生 5 名に対する有効な教育実習の方向を検討したい。</p> <p>(1) 留学生 3 名はどの学生も日本語能力、性格、授業態度すべてにおいて優秀な学生である。</p> <p>(2) 日本人学生 1 名は口頭でのコミュニケーション活動がとても苦手であり、実習において学生とのコミュニケーションにかなり不安がある。</p> <p>(3) 留学生別科の学生募集が変更されたため、来年度入学生が 3 名という実情となっている。3 名のクラスでの実習がどのように可能か検討が必要である。</p> <p>2. 各学科におけるカリキュラム改定に伴う選択・必修科目の見直しについて</p> <p style="text-align: right;">【大】</p>

検討組織名：日本語教員養成課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 中旬～下旬	1．各委員に口頭にて今年度の状況を説明の上、教育実習担当者から下記項目について確認し、承認を得る。 (1) 教育実習先への実習生の配分について (2) 教育実習先として「留学生別科」の授業を利用することについて
平成 21 年 4 月 23 日	1．留学生別科の学生たちに口頭にて日本語教員養成課程の実習に協力してほしい旨、依頼する。
平成 21 年 5 月 19 日	1．現代文化学部教授会にて、日本語教育実習一覧表を配布し、該当学生の公欠の承認を得る。 (平成 21 年 5 月 19 日 教授会承認)
平成 22 年 2 月 28 日	1．メール連絡により、下記項目について確認し、承認を得る。 (1) 平成 21 年度修了生の確認と承認
平成 22 年 3 月 2 日	1．合同教授会にて、委員会での修了生の承認について報告する。

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修者の母体となる国際文化学科において英語英文コースが閉鎖されたことを受けて、本プログラムのある方を見直し、変更するべき点は改めていく。 2. 次年度におけるコミュニティーオープンカレッジの児童英語教室に、委員会としてどのように関わるべきかを検討していく必要がある。 3. 小平市立第十小学校における教育実習の更なる充実をはかる。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会としては、学生の学びと社会貢献のために「児童英語ボランティア」のスタンスをとった複数の科目にシフトしていくことを話し合ったが、その後の学部長との話し合いの中で、学部全体の学生の中で児童英語に興味を持つ者が履修できる新設科目を立ち上げ、そのニーズをはかりながら移行措置を考えていく形をとることに決定した。 2. 本委員会メンバーのうち教員 2 名が、それぞれ年少組から年長組までの初級児童英語教室をコミュニティーオープンカレッジにおいて担当し、計 12 回の授業を土曜日に行うことが決まった。 慣れない環境で体験学習をする児童達のケアを十分にしていくために、英語コミュニケーション研究室の他教員達もサポート役として各回に入る協力体制が得られてよかった。 3. 実習生達が、小平市立第十小学校における先生方の授業研究会等にも参加させて頂いた。研究熱心であったことの成果を自分達の教育実習にも十分に生かすことができ、校長先生からもお褒めの言葉を頂いた。 <p style="text-align: right;">【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. けやき祭における児童英語教室の運営方法について、児童の年齢にあわせた指導方法を幾つか準備するなど、よりよく改善できる点について、検討を進める。 2. 児童英語に興味を持つ学生達には実習のアシスタント的な役割などを割り当てることで、児童と積極的に関われる機会を出来るだけ持たせ、実際の児童の反応を通してスキルを習得させる。 3. 児童英語教員養成課程の枠を越えた児童英語に関連する案件が増えているため、これに関して本委員会がどのように関わっていくのが適切か、また、英語関連科目の専任教員の間でどのようにマンパワーを配分していくのが良い結果につながるかを検討していく必要がある。 <p style="text-align: right;">【大】</p>

検討組織名：児童英語教員養成課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 13 日	1 . 小平市立第十小学校の新校長が着任されたため、今後も例年通りの実習を行わせて頂けように依頼
平成 21 年 5 月 7 日	1 . 当委員会とけやき祭児童英語教室担当者および履修者で、けやき祭にむけての選曲・ポスター製作、レイアウト等について検討
平成 21 年 5 月 11 日	1 . 近隣小学校に向けて、けやき祭児童英語教室の案内状を作成し送付
平成 21 年 6 月 6 日	1 . 本学小平キャンパス「けやき祭」において、児童英語教室の設置
平成 21 年 9 月 2 日	1 . 江戸川区役所の「すくすくスクール」担当者と、実習の打ち合わせを
平成 21 年 10 月 5 日・ 16 日・19 日・26 日	1 . 江戸川区立船堀小学校「すくすくスクール」英語教室において、児童英語指導法の実践
平成 21 年 5 月～11 月	1 . 英語コミュニケーション研究室室長と当委員会とで、児童英語関連科目の新設科目等について検討
平成 21 年 11 月 23 日	1 . 当委員会より、学部共通基礎教養科目として、「Children ' s English」を、カリキュラム委員会に提出 (平成 21 年 12 月 8 日教授会承認)
平成 21 年 12 月 8 日	1 . 現代文化学部学部長と英語コミュニケーション研究室室長ならびに当委員会委員長で、教学課課長をまじえて、児童英語に関するミーティング
平成 22 年 1 月 25 日	1 . 履修生が、教育実習事前教育の一環として、小平市立第十小学校校長先生より講話を受け、副校長先生にもご指導を頂いた。
平成 22 年 2 月 9 日・ 12 日・15 日・16 日	1 . 小平市立第十小学校において、1 年生 2 クラスと 2 年生 3 クラスを対象に児童英語教育実習
平成 22 年 2 月 16 日	1 . 今後の小平市立第十小学校での活動について、校長先生ならびに副校長先生と委員長が話し合い

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生へのアンケート調査のあり方を検討する。 2. 教職員、非常勤講師のなかには日本語に理解が十分でない外国人が含まれるので、簡単な英文の「ガイドライン」を作成する。 3. 広く配布している「リーフレット」の改定時期が来ているので、検討する。 4. 教職員全体に対し、ハラスメント防止への意識啓蒙をはかる。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>取組の結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学ファカルティ・ディベロップメント委員会(以下、全学 FD 委員会)が行った学生アンケートに参加することを検討したが、平成 21 年度は主としてカリキュラムと授業を対象としているため、断念した。学生の声を聞く手段として「意見箱」が有効に活用され始めているので、あわせて活用の検討を行った。 2. 英文の「ガイドライン」作成は、他の委員会活動の緊急性が優先し、平成 21 年度は着手できなかった。引き続き、平成 22 年度の課題として取り上げることとなった。 3. 新しい「リーフレット」の作成について、検討を始めた。 4. 教職員全体に対し、ハラスメント防止への意識啓蒙をはかるために、「2009 年度上半期大学関係ハラスメント事例と処分」と題する文書を各研究室に配布した。 教職員に対しハラスメント防止の意識啓蒙へ一層の協力を求めた。 5. 平成 21 年度に対応したハラスメント事案は 4 件であった。2 件は調査委員会に送り、2 件は報告書作成に留まった。 <p>点検評価</p> <p>平成 20 年度に課題として設定した事項はほぼ達成することが出来た。残された課題は英文の「ガイドライン」の作成を検討することであり、引き続き次年度に課題として取り上げる。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報活動用の「リーフレット」の改定時期が来ているので、内容を再検討し、作成する。 2. ネット上の中傷についての注意喚起の方法を検討する。 3. 教職員、非常勤講師のなかには日本語の理解が十分でない外国人が含まれるので、簡単な英文の「ガイドライン」を作成しておくことが望ましく、作成に着手する。 4. 教職員全体に対し、引き続きハラスメント防止への意識啓蒙をはかる。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：ハラスメント防止委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 6 月 2 日	1．本委員会のこれまでの経過について（委員の半数が交代となったため）全体の確認 2．ハラスメント事案に対する本学の姿勢についての確認 （フローチャートと対応マニュアル） 3．本年度の目標と課題 （自己点検・評価報告書） 4．ネット上の中傷についての対応 5．発生事案についての対応
平成 21 年 7 月 30 日	1．平成 21 年度相談員研修会の件 2．各研究室への配布資料「2009 年度上半期 大学関係ハラスメント事例と処分」について 3．ハラスメント事案 2 件について 4．全学 FD 委員会の授業アンケート(学生対象)の結果について
平成 21 年 9 月 8 日	相談員研修会 健康管理センター、学生生活委員会、全学 FD 委員会主催のセミナーに参加 メンタルヘルスセミナー - 学生のこころの問題を考える - 目的：学生の心の問題に関する大学教職員の理解を深め、認識を高めるため 内容：パネルディスカッション
平成 21 年 12 月 8 日	1．ハラスメント事案 2 件についての経過報告 2．相談員の任期について 3．学生に配布している広報用の「リーフレット」について
平成 22 年 3 月 2 日	1．全学自己点検・評価委員会への報告書について 2．平成 21 年度の事案についての総括 3．「リーフレット」改変の検討 4．相談員の任期について 5．平成 22 年度の課題と取り組み

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>平成 21 年度は新入留学生数が増加したため、きめ細かい指導と対応を心がけた。4 つの大きな部門別に担当者を決め、以下の問題について委員会で検討を進めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行事・学習支援・・・留学生研修旅行を、新都心キャンパスでは 9 月下旬に実施する。また、上級生による学習相談については、1 年生が相談しやすいよう実施方法等を検討する。【共】 2. 就職その他の支援・・・今年度も 6 月に「留学生のための就職ガイダンス」を実施する。より具体的で有効な内容になるよう検討していく。【共】 3. 小平キャンパス・・・6 月下旬に研修旅行を実施する。チューター制度をさらに活性化していく。留学生による日本語スピーチコンテストの実施についても検討する。【大】 4. 関係諸行事への参加率を上げる方策を検討する。【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行事・学習支援・・・平成 21 年度、新都心キャンパスは 9 月下旬に日光方面へ、小平キャンパスは 6 月下旬に茨城方面へ出かけ、親睦を深めた。上級生による学習相談については実施方法を模索したが、改善には至らなかった。次年度の課題としたい。【共】 2. 就職その他の支援・・・2 月の春季就職講座に合わせて「留学生のための就職ガイダンス」を実施した。また、外部の留学生のための就職セミナーなどの情報を周知した。【共】 3. 小平キャンパス・・・チューター制度を運営、研修旅行を企画・実施した。また、上級生については、従来の留学生懇談会を「進路等相談会」として実施した。留学生による日本語スピーチコンテスト開催を中心になって推進した。【大】 4. 留学生の諸行事については、授業（日本の文化）や各種ガイダンス等で出席を促す指導を行った結果、参加率を上げることができた。【共】
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<p>平成 22 年度は委員会の改編等が予定されており、この委員会としての活動が継続できるかどうかは不確定である。現時点での次年度への課題を掲げておく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行事・学習支援・・・留学生研修旅行は両キャンパス合同で 9 月に実施し、箱根方面の予定である。多くの学生が充実して過ごせるものにしたい。このほか各行事についても再検討していく。上級生による学習相談についても検討を続ける。【共】 2. 就職その他の支援・・・留学生の日本での就職希望はますます高まっている。就職特別委員会と共同して、学生のニーズにあった就職指導を考えていく。【共】 3. 小平キャンパス・・・新入留学生懇談会・上級生進路等相談会を継続する。チューター制度の活性化を図る。留学生による日本語スピーチコンテストについては在り方を再検討する。【大】

検討組織名：留学生指導特別委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 30 日	<ol style="list-style-type: none"> 1．平成 21 年度留学生指導特別委員会活動方針について 2．平成 20 年度自己点検・評価報告書について 3．平成 21 年度留学生数について 4．チューター制度（現代文化学部）について 5．留学生別科について
平成 21 年 6 月 2 日	<ol style="list-style-type: none"> 1．新入留学生懇談会について 2．私費外国人留学生授業料減免の規程について 3．私費外国人留学生学習奨励費の追加募集について 4．留学生研修旅行について 5．学習支援について 6．留学生のための就職ガイダンスについて 7．けやき祭（小平キャンパス）について 8．チューター制度（現代文化学部）について 9．留学生センターについて
平成 21 年 7 月 7 日	<ol style="list-style-type: none"> 1．新入留学生懇談会結果報告（新都心キャンパス）について 2．留学生研修旅行について 3．学習支援について 4．留学生センターについて
平成 21 年 10 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1．留学生研修旅行（新都心キャンパス）について 2．新入留学生懇談会結果報告（小平キャンパス）について 3．上級生懇談会（新都心キャンパス）について 4．入学相談室の利用方法（新都心キャンパス）について 5．留学生による日本語スピーチコンテストについて 6．留学生のための就職ガイダンスについて 7．大学院実習室（新都心キャンパス）について 8．留学生センターについて
平成 21 年 12 月 1 日	<ol style="list-style-type: none"> 1．上級生懇談会結果報告（新都心キャンパス）について 2．留学生進路等相談会（小平キャンパス）について 3．留学生による日本語スピーチコンテストについて 4．留学生の在留期間更新・在留資格変更の申請について
平成 22 年 1 月 7 日	<ol style="list-style-type: none"> 1．平成 22 年度留学生行事予定について 2．留学生進路等相談会結果報告（小平キャンパス）について 3．留学生のための就職ガイダンスについて 4．私費外国人留学生学習奨励費応募者選考基準（文化女子大学内規）について

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学事前教育プログラムの再検討 【共】 2. 平成 21 年度進学フェスタ・公開授業・サマーオープンカレッジ実施の検討【共】 3. 平成 22 年度センター試験利用入試の検討【大】 4. 短期大学部への関心をさらに高めるための対応についての検討【短】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学事前教育プログラムの再検討【共】 平成 20 年度より服装学部と造形学部は、A0 入試入学予定者に外部委託の入学事前教育プログラムを実施している。実施結果より入学までの勉学への意欲の継続、入学後の傾向等が分かるなど効果的な成果が見られたため、今年度、服装学部は推薦入学予定者にも外部委託の入学事前教育プログラムを実施した。結果、高受講率であった。【共】 2. 平成 21 年度進学フェスタ・公開授業・サマーオープンカレッジ実施の検討【共】 平成 21 年度進学フェスタを両キャンパス合わせて 10 回開催した。結果、来場者は 1 割減であったが、サマーオープンカレッジは前年より増加した。進学フェスタの集客数を増やすため、次年度に向けて 3 学部合同での日程および内容の検討を行った。【共】 3. 平成 22 年度センター試験利用入試の検討【共】 平成 20 年度より造形学部で実施し、今年度の志願者は若干減少した。平成 23 年度より服装学部と現代文化学部においても、A0 入試、推薦入試受験者とは異なる受験層の獲得を目的として実施することになった。【大】 短期大学部は実施しない。【短】 4. 短期大学部への関心をさらに高めるための対応についての検討【短】 進学フェスタやサマーオープンカレッジなどで短期大学部の魅力をアピールしているが、18 歳人口の減少、大学進学者増のため、短期大学部の志願者数は減少傾向にある。次年度に向けても更に検討する必要がある。【短】
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学事前教育プログラムの再検討【共】 2. 平成 22 年度進学フェスタ・公開授業・サマーオープンカレッジ実施の検討【共】 3. 短期大学部への関心をさらに高めるための対応についての検討【短】 4. 入試のあり方への検討【共】

検討組織名：学生募集対策特別委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 21 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 1 回進学フェスタについて（報告） 2. 公開授業について（原稿依頼内容の確認） 3. 高等学校教員対象進学説明会（新都心キャンパス開催）について
平成 21 年 5 月 26 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 2・3 回進学フェスタについて（内容確認） 2. 第 4 回進学フェスタ(公開授業)について(公開授業用 DM の確認) 3. 競合大学のオープンキャンパス日程について 4. 入学事前教育プログラム(業者委託分)について(平成 21 年度入学者の受講状況の報告) 5. 服装学部と現代文化学部の平成 23 年度センター試験利用入試導入について(状況報告)
平成 21 年 6 月 30 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. A0 入試(1 期)のエントリー状況について(報告) 2. 第 2・3 回進学フェスタについて(報告) 3. 応用健康心理学科の募集について(申請状況の報告、広報方法の説明) 4. 高校教員対象説明会(小平キャンパス開催)について 5. 服装学部と現代文化学部の平成 23 年度センター試験利用入試導入について(経過報告) 6. センター試験と他の入試との関係について(データ分析による報告)
平成 21 年 7 月 21 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. A0 入試(1 期)のエントリー状況について(報告) 2. 第 4・5・6 回の進学フェスタについて(報告) 3. サマーオープンカレッジ応募状況結果(報告) 4. 応用健康心理学科の教員による高校訪問について 5. 試験結果(倍率)の公表方法についての検討
平成 21 年 9 月 29 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. A0 入試(1 期)について(出願許可等の報告) 2. 第 7・8 回進学フェスタについて(報告) 3. 入学事前教育プログラムの内容について(各学部学科の状況報告) 4. 平成 21 年度入試結果の公表について(公表数字の提示、確認) 5. 平成 22 年度進学フェスタ(公開授業、サマーオープンカレッジ含む)開催日程の検討 6. A0 入試の実施方法、提出書類についての検討
平成 21 年 10 月 27 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 推薦入試の志願状況について(報告) 2. 平成 22 年度進学フェスタ日程・企画内容・開催スタイルの検討 3. 入学事前教育プログラムについて(各学部学科の課題内容の決定、報告) 4. 指定校推薦の導入について再検討 5. 平成 23 年度 A0 入試エントリーシートの様式について検討
平成 21 年 11 月 24 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 22 年度進学フェスタ日程・企画内容・開催スタイルの検討 2. A0 入試(2 期)のエントリー状況について(報告) 3. 平成 23 年度 A0 入試エントリーシートの様式について検討
平成 21 年 12 月 15 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 22 年度進学フェスタ日程・企画内容・開催スタイルの検討 2. A0 入試(2 期)について(出願許可等の報告) 3. 入学事前教育プログラム(業者委託分)の申込状況の報告(A0 入試 1 期・推薦入試) 4. 平成 23 年度 A0 入試エントリーシート、提出書類について(結果報告)
平成 22 年 1 月 26 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般入試(A 日程)志願者状況について(報告) 2. センター試験利用入試(S 期・ 期)志願者状況について(報告) 3. 平成 22 年度進学フェスタ企画内容の報告および検討 4. 入学事前教育プログラム(業者委託分)の申込状況について(A0 入試 1 期) 5. 自己点検・評価報告書の提出原稿の確認について
平成 22 年 2 月 23 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. センター試験利用入試(S 期・ 期)結果報告、(期)出願状況について 2. 一般入試(B 日程)志願者状況について(報告) 3. 平成 23 年度進学フェスタの開催方法および内容について 4. 定員増の為の多様な入試方法についての検討 5. 造形学系特別進学フェスタの報告 6. 平成 23 年度入試用 A0 入試ガイド作成の為の確認依頼 7. 自己点検・評価報告書の提出原稿の確認について
平成 22 年 3 月 16 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 22 年入試結果について 2. 平成 22 年度進学フェスタ 平成 22 年 4 月 17 日の合同会場実施の内容・会場レイアウト等の検討 3. 次年度への申し送り事項について

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップについての学生の関心度アップおよび新規企業の開拓 エントリー前の段階で PR や具体的な説明を行い、目的や意義を深め、関心度・参加率を高める。さらに新規企業の積極的な開拓を進める。また、資格と結びついたあり方も検討する。【大】 2. キャリア支援についてのサポートの充実 入学から卒業までのキャリアサポートシステムの一層の充実・整備を図る。造形学部キャリア支援ネットの在学生および卒業生の活用を高める。【共】 3. 「短大生のための企業見学とタウンリサーチ」の継続 服装学科・生活造形学科・事務局の連携を緊密に、特色あるプログラムを展開する。【短】 4. 就職環境・学生気質をふまえての就職講座実施についての検討 講座内容・開催の時期を検討。また、遠隔授業も含めての充実も図る。【共】 5. 服装造形学科の4月のファッションショーと就職活動との対応策について 5月に学内で合同企業説明会を実施できるよう具体策を検討する。【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップについての学生の関心度アップおよび新規企業の開拓 学生の関心を高めるために、4月のオリエンテーション時からガイダンスを実施し、担任やゼミ等で周知徹底を行った。新規を含む企業開拓も積極的に実施。事前教育・研修・報告会は学生の気質に応じて内容を充実させ効果を上げた。今後、履修取消者について対策を検討。【大】 2. キャリア支援についてのサポートの充実 キャリア形成教育科目を1年次「キャリアデザイン(導入編)-フレッシュマンキャンプ-」・3年次「キャリアデザイン(展開編)-コースセミナー-」で実施。自己のキャリア形成を考えるきっかけとした。卒業生・在校生が交流する支援イベントも開催。「資格支援講座」では資格保有者の卒業生を招き、試験対策講座を実施した。【大】 3. コラボレーション科目「短大生のための企業見学とタウンリサーチ」の継続 参加学生・見学企業が増加し充実した内容で実施。今後も特色あるプログラムを展開する。【短】 4. 就職環境・学生気質をふまえての就職講座実施についての検討 講座内容・開催時期・参加率低下の対応策を検討した。今後も継続する。【共】 5. 服装造形学科の4月のファッションショーと就職活動との対応策について ショー終了後の5月に学内合同企業説明会を実施。企業の協力もあり成功裏に終了した。【大】 6. その他 服装学部担任・副担任の企業訪問を行い企業の求める人材・能力等アンケートを実施した。【大】
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップについての学生の関心度アップおよび新規企業の開拓 履修登録前の説明会の工夫、担任からの意義周知徹底、就職を意識した内容の取組みや事前教育、幅広い視野での企業開拓を進める。【大】 2. キャリア支援について キャリア形成教育科目と就職講座の内容重複を見直し連動させる。就職支援イベント等の継続的实施と学生が興味を持つ実学分野の検討を行う。【大】 3. コラボレーション科目「短大生のための企業見学とタウンリサーチ」の充実と継続 見学企業の拡大と内容の更なる充実を検討し、特色あるプログラム展開を行う。【短】 4. 就職活動・就職講座について 早期からの意識向上と講座への出席について、現況を踏まえ内容や時期を検討する。【共】 5. 担任・副担任との連携について 情報の共有化をはかり学生支援に生かす。企業訪問・アンケート等の継続実施。【共】

検討組織名：就職特別委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 14 日	1. 各小委員会の活動報告（学部 / インターンシップ履修ガイダンス、短期大学部 / 専攻科 インターンシップ認証評価・コラボレーション科目） 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他（就職特別委員会活動計画、就職講座出席状況、）
平成 21 年 5 月 19 日	1. 各小委員会の活動報告（服装・造形学部 / インターンシップ面接、短期大学部 / キャリ ア形成科目・コラボレーション科目企業見学・認証評価・専攻科インターンシップ） 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他（インターンシップ応募者数、マナー講座）
平成 21 年 6 月 30 日	1. 各小委員会の活動報告（服装学部 / インターンシップ事前教育、造形・現代文化学部 / インターンシップ報告会、短期大学部 / コラボレーション科目） 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他（インターンシップ研修生一覧、学生支援推進プログラム）
平成 21 年 7 月 28 日	1. 各小委員会の活動報告（服装・現代文化学部 / インターンシップ事前教育、造形学部 / インターンシップ研修生数及び企業状況・就職講座、短期大学部 / 学生の就職意識） 2. 求人状況及び学生の就職活動状況（夏季就職講座）
平成 21 年 9 月 29 日	1. 各小委員会の活動報告（学部 / インターンシップ公開報告会、短期大学部 / コラボー レーション科目追加登録、専攻科インターンシップ報告） 2. 求人状況および学生の就職活動状況（個人面談実施） 3. その他（学生支援推進プログラム採択、服装学部インターンシップ企業お礼訪問）
平成 21 年 10 月 26 日	1. 各小委員会の活動報告（服装・造形・現代文化学部 / インターンシップ公開報告会） 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他（就職セミナー、就職未決定者フォロー、副手の雇用形態）
平成 21 年 12 月 1 日	1. 各小委員会報告（造形学部 / インターンシップ公開報告会、現代文化学部 / 就職講座出 席率・コラボレーション科目、短期大学部 / コラボレーション科目・個人面談） 2. 求人状況および学生の就職活動状況 3. その他（就職活動早期化に対する支援対策、プレジデントファミリー造形学部記事掲載）
平成 22 年 1 月 22 日	1. 各小委員会の活動報告（現代文化学部 / インターンシップ企業お礼訪問） 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他（春季就職講座、就職懇談会、5 月開催学内合同企業セミナー）
平成 22 年 2 月 23 日	1. 各小委員会報告（造形学部 / 就職講座出席率・担任副担任との連携・ポータル活用、現 代文化学部 / 就職講座出席率・担任へ協力依頼、短期大学部 / コラボレーション科目） 2. 求人状況及び学生の就職活動状況 3. その他（緊急就職相談会開催、説明会エントリー予約、エントリーシート）
平成 22 年 3 月 18 日	1. 各小委員会報告（服装学部 / 就職を意識したインターンシップ支援・就職講座出席率・ 企業訪問アンケート、造形学部 / インターンシップ書類・就職講座・キャリア形成科目、 現代文化学部 / 自己点検評価・就職講座出席率、短期大学部 / 自己点検評価） 2. 求人状況及び学生の就職活動状況（厚生労働省内定状況調査） 3. その他（新卒者体験雇用事業・平成 21 年度就職講座出席率・平成 22 年度就職講座内容）

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本年度は学内教員から講演者の選定をすることを踏襲しつつも、学外講演者も視野に入れたテーマの選定と学園施設の利用を取り入れた講座の運営について検討する。 2. 公開講座と服飾博物館の展示内容との関連を持たせるため、服飾博物館とは早めの事前打合せが必要であり、よりよい連携を今後も図っていく。 3. 公開講座周知のために、ホームページや出版物への掲載、講座内容に合う対象者や大学近隣者へ広報など、広報手段の強化を検討する。 4. 公開講座の実動面を強化するにあたり准教授の増員が望まれるため、改善を求めていく。 5. 中長期的な視野からこれからの公開講座のあり方について、本学の人的、施設的な資源をフルに活かしていくのか、あるいは社会や時代の変化からタイムリーで本学的なテーマを見つけ、講演内容や講師(外部講師も含めて)を探っていくのかを検討する必要がある。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本年度の公開講座は、秋期(11月)に文化ファッション研究機構とのコラボレーションで学外から共立女子大学長崎巖教授、春期(3月)に学内より田村照子教授へ講演を依頼し、終了後は博物館を見学する内容で実施した。両講座ともに講座参加者の評判は良好で、アンケート結果では9割以上が満足との評価が寄せられた。これは講演テーマ内容の選定が参加者の興味やニーズに即していたことと、服飾博物館収蔵品の充実度によるところが大きいと思われる。 2. 服飾博物館とのテーマの関連性について、本年度は博物館との連動を必ずしも不可欠のものとはせず、講座は講座でその時々に対応しいテーマを設定していくという新たな方向性を見出した。また、委員会の要請に応え、博物館では学芸員が展示室内で参加者の質問に直接答える機会を設けた。これらは博物館運営体制とのより良い連携の模索を重ね、参加者の立場に立った本委員会の地道な活動姿勢によるものと評価している。 3. 秋期の広報媒体は朝日新聞、文化出版局発行誌、講演者の執筆関連の出版物、公共掲示及び、文化女子大学ホームページによるものが主であったが、ダイレクトメールによるリピーター数の多さから、本学公開講座に対する参加者の定着率の高さを確認することが出来た。 4. 新規委員に准教授が選出され業務分担の引継ぎは実施されたが、改善には至っていない。 5. 参加者の多くの志向は服飾博物館の見学が並行して実施されるところにある。しかし、博物館展示テーマに対応した講演テーマ選定を重視するあまり、特定領域分野に偏らないように今後も検討をしていかなければならない。服装学・造形学体系の大学の特色を活かし、社会貢献を意識した公開講座にするためには、広い見地から時代の要求する創造的なテーマを取り上げていくことが必要である。 【共】
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化ファッション研究機構とのコラボレーションによる学外者の講演は好評で、機構のプロジェクト研究等も参加者の関心が高い内容であるため、次年度も継続が望まれる。 2. 服飾博物館との連携は今後も密に行い、参加者の満足が得られる作品解説、誘導案内、アナウンスの仕方等の検討を重ねていく。 3. 文化出版局 2 誌が休刊となるため、掲載誌の開拓が必要である。また、公開講座に関する情報周知のためには、他メディアによる広報手段も図っていく。 4. 委員の役割内容・分担について平成20年度より改善を実施しマニュアル化を進めたが、次年度も引き続き改編後の委員会のメンバー構成に合う、実務の合理化と簡略化を図る必要がある。 5. 委員会が改編される次年度を機に公開講座の位置づけを改めて審議し、「本年度の課題 5」で挙げた中長期的な視野での公開講座のあり方を継続課題として検討する。 【共】

検討組織名：公開講座運営特別委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 5 月 19 日	第 1 回公開講座運営特別委員会 1. 委員長挨拶 2. 平成 20 年度からの申し送り事項 3. 平成 21 年度特別公開講座運営委員会の運営について 4. 平成 21 年度秋期及び春期特別公開講座について（講演講師・日程について） 5. 役割分担について
平成 21 年 6 月 16 日	第 2 回公開講座運営特別委員会 1. 平成 21 年度秋期及び春期特別公開講座について 2. 役割内容及び分担について 3. 予算について 4. 博物館との連携について
平成 21 年 9 月 29 日	第 3 回公開講座運営特別委員会 1. 平成 21 年度秋期特別公開講座進捗状況 各担当から報告 2. 役割分担について 3. 博物館との連携について 4. 予算について
平成 21 年 11 月 17 日	第 4 回公開講座運営特別委員会 1. 秋期特別公開講座進捗状況 各担当から報告 2. 学芸員課程履修学生の公開講座の関わり方について 3. 春期特別公開講座の開催時間について
平成 21 年 11 月 24 日	秋期特別公開講座当日打ち合わせ 1. 会場設営、吊り看板、設備等確認（照明・マイク・試写・機器）花 2. 受付準備
平成 21 年 11 月 24 日	平成 21 年度秋期特別公開講座 講演：長崎 巖 共立女子大学教授/文化女子大学 文化ファッション研究機構運営委員・共同研究員 「江戸時代の小袖と呉服注文 三井家伝来小袖と衣裳下絵との関係を中心に」 講演終了後、博物館誘導、案内
平成 21 年 12 月 15 日	第 5 回公開講座運営特別委員会 1. 秋期特別公開講座報告 各担当者からの報告 2. 春期公開講座について（スケジュール、役割分担、予算の確認）
平成 22 年 2 月 10 日	第 6 回公開講座運営特別委員会 1. 秋期公開講座アンケート集計結果について 2. 春期特別公開講座進捗状況 各担当者からの報告 スケジュールの確認 3. 平成 21 年度自己点検・評価報告書執筆について
平成 22 年 3 月 3 日	春期特別公開講座当日打ち合わせ 1. 会場設営、吊り看板、設備等確認（照明・マイク・試写・機器）花 2. 受付準備
平成 22 年 3 月 3 日	平成 21 年度春期特別公開講座 講演：田村照子教授「着心地・寝心地・履き心地 - 健康に効くファッションのすすめ -」 講演終了後、博物館誘導、案内
平成 22 年 3 月 17 日	第 7 回公開講座運営特別委員会 1. 春期公開講座報告 2. 自己点検・評価報告作成について 3. 経費報告 4. その他

検討組織名：研究倫理委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 22 年 4 月 1 日

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 「文化女子大学、文化女子大学短期大学部研究倫理規程」の施行に伴い、本学研究者の研究倫理に関する認識を高めるための方策を検討する。</p> <p>2. 研究者間の研究倫理を確保するために、委員会としての取組みを検討する。</p> <p>3. 「ヘルシンキ宣言 人間を対象とする医学研究の倫理的原則」を研究倫理の基本におくこととする。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 「文化女子大学、文化女子大学短期大学部研究倫理規程」を全教員に周知することに努めた。</p> <p>2. 研究倫理の基本となる「ヘルシンキ宣言 人間を対象とする医学研究の倫理的原則」について周知を図ることとした。</p> <p>3. 「ヘルシンキ宣言 人間を対象とする医学研究の倫理的原則」に基づいて、研究、研究発表の可否を委員会で審議することとした。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 本学倫理規程に基づいた本学研究者の研究が促進されるよう、認識を高めることに努める。</p> <p>2. 本学の研究と「ヘルシンキ宣言」との関係をもつ分野について、さらに検討を進めることとする。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>平成 21 年 4 月 28 日</p>	<p>1. 副委員長に田村照子教授、書記に円谷葉子教務課長とすることに決定。</p> <p>2. 本委員会は研究倫理、さらには「生命倫理」に係る事項について審議・検討する。今後は規程にも記載されている通り「ヘルシンキ宣言」に基づき、研究、あるいは研究発表の可否について、本委員会の承認を得ることとする。</p>

検討組織名：研究費不正使用防止委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 22 年 4 月 1 日

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく体制整備等の実施状況報告書」に基づいた不正防止の方策を検討する。 2. 科学研究費補助金の事務取扱説明会の具体的方法について策定する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 本学が提出した「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく体制整備等の実施状況報告書」を再確認し、本委員会規程に基づく不正防止についても再確認した。 2. 科学研究費補助金の事務取扱説明会を、事務局教務部学事課が平成 21 年 7 月 7 日に開催した。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 学内の研究費不正使用防止に関する啓蒙活動をさらに活発化させる。 2. 「文化ファッション研究機構」「文化・衣環境学研究所」「文化・住環境学研究所」の研究活動が活発になってきているので、今後の研究費不正使用防止に関する課題を検討する。 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 10 月 6 日	1. 本学が文部科学省に提出した「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく体制整備等の実施状況報告書」を再確認した。

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「貴重書デジタルアーカイブ」(3 ヵ年計画・2 年目)への画像の追加、および品質の向上 2. 「文化学園リポジトリ」への研究成果データ登録の推進 3. 資料の有効利用推進と効果的保存に関する対策 4. 館内環境の向上 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「貴重書デジタルアーカイブ」(3 ヵ年計画・2 年目)への画像の追加、および品質の向上 <ol style="list-style-type: none"> (1) 新システムによるウェブ一般公開を開始した。(2010.3 現在 140 タイトル 28,000 画像公開中) (2) タイトルごとに分類し、テーマ別検索を可能にした。 (3) 図版画像にキャプションおよび日本語(訳)を追加入力しキーワード検索の対象範囲を拡大した。(継続作業中) (4) 50 タイトル 24,282 画像を新たに撮影しサーバに追加した。(一般公開準備中) (5) 貴重書の閲覧・撮影申請に対してデータベース画像を提供することで、利用の拡大と貴重書の保護という相反する要求を満たすことができた。 2. 「文化学園リポジトリ」への研究成果データ登録の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教授会で資料配布および実演などを行いリポジトリへの理解を促した。 (2) リポジトリの概要説明書、公開許諾用紙を作成し、教員にメール等で配布し広報に努めた。 (3) 一部の教員に個別にコンテンツの提供を依頼し、登録・公開した。 (4) 今後も広報活動を継続して登録件数を増やすことが課題である。 3. 資料の有効利用推進と効果的保存に関する対策 <ol style="list-style-type: none"> (1) 電子ジャーナル利用説明会を開き、希望者に学外からのアクセス ID を発行した。 (2) 雑誌バックナンバーデータ登録、新都心・小平両館の重複書誌統合などのデータ整備を進めた。 (3) 錦絵等を専用の棚に移動し保存環境を改善した。同時に、図版つき索引を作成し出納を容易にした。 4. 館内環境の向上 <p>閲覧室内の椅子の張替え(3 ヵ年計画・3 年目)を行った。また、貴重書室スチール書架を専用木製書架(4 ヵ年計画・3 年目)に入れ替え、保存環境を改善した。</p> 5. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 文化祭にあわせて、所蔵雑誌「Visionaire」の展示を行った。体感できる展示方法の効果もあり来館者の反応は好調だった。 (2) 新都心・小平のホームページを一本化し、利便性を高めた画面に刷新した。 (3) 文庫本コーナーを新設し文学分野図書の充実を図った。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「貴重書デジタルアーカイブ」規模倍増ウェブ公開(3 ヶ年計画・完成年度) 2. 時代に即した環境とサービスの提供 3. 小平館への部分的業務委託導入による経費削減 4. 学園再開発計画に伴う府中キャンパス書庫収蔵資料の移動 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：文化女子大学図書館

開催年月日	運営会議（管理職会議）
平成21年 4月 14日	1. 室蘭短大資料の扱い 2. 司書四課廃止にともなう分課分掌業務規程変更 3. 貴重書デジタルアーカイブ（以下貴重書 DA）・ホームページ・文化学園リポジトリ（以下文化学園R）各プロジェクト現況報告、ほか
平成21年 5月 13日	1. 研究室図書・重点配分中止への対応検討 2. 文庫本コーナー新設、ほか
平成21年 6月 9日	1. 健康心理学科募集再開に関する対応業務 2. 図書館委員会委員長選出に関する規程改正案、ほか
平成21年 7月 14日	1. 文庫本コーナーへの図書寄贈募集、設置場所等の検討、ほか
平成21年 8月 4日	1. 図書館開館・閉館時間に関する各課意見交換、ほか
平成21年 9月 1日	1. 文化祭展示 2. 小平館の資料配置見直し報告、ほか
平成21年 9月 28日	1. 平成22年度小平館業務委託先検討状況 2. 新都心・小平両館の書誌統合推進、ほか
平成21年 10月 6日	1. 「高額図書図書館受入願」申請の決裁、ほか
平成21年 10月 20日	1. 短期大学部第三者評価認証のための自己点検・評価報告書作成、ほか
平成21年 11月 18日	1. 平成22年度業務計画案・予算案検討、ほか
平成21年 11月 25日	1. 平成22年度予算案確認 2. 府中キャンパス・ふじ寮・H館再開発計画案、ほか
平成21年 12月 8日	1. 小平館業務委託に関する業務体制検討 2. 平成22年度予算案最終確認、ほか
平成22年 1月 7日	1. 平成22年度予算、経理部折衝結果確認、ほか
平成22年 1月 18日	1. 小平館業務委託業者決定 2. 総務本部提出用平成22年度業務計画案検討、ほか
平成22年 1月 26日	1. 総務本部提出平成22年度業務計画書報告、ほか
平成22年 2月 9日	1. 文化ファッション研究機構予算による購入資料検討、ほか
平成22年 2月23日	1. 平成21年度予算消化状況確認・調整、ほか
平成22年 3月 9日	1. 平成22年度人事について 2. 貴重書デジタルアーカイブ、ほか
平成22年 3月24日	1. 平成22年度業務担当グループ・プロジェクト担当編成 2. 府中書庫所蔵資料の除籍方針、ほか

開催年月日	部会（館員全体会議）
平成21年 4月 1日	1. 平成21年度組織・委員会編成 2. 各課業務分担 3. その他の業務連絡
平成21年 6月 30日	1. 人事異動 2. 「高額図書図書館受入願」について 3. その他の業務連絡
平成21年 9月 30日	1. 文化学園R、貴重書 DA 現況報告 2. 文部科学省助成金申請 3. その他の業務連絡
平成21年 11月 30日	1. 平成22年度業務計画案、予算案、開館日程案 2. その他の業務連絡
平成22年 1月 29日	1. 平成22年度予算折衝結果報告 2. 平成22年度図書館開館日程表訂正連絡 3. その他の業務連絡

開催年月日	図書館委員会
平成21年 7月 1日	1. 役員選出 2. 図書館委員会規程改正案 3. 平成20年度業務報告 4. 平成21年度業務計画・資料費予算 5. 意見交換、ほか
平成21年12月 2日	1. 図書館業務概要報告 2. 平成21年度上半期業務報告 3. 平成22年度業務計画案、予算案、図書館カレンダー案の審議 4. 意見交換、ほか

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 展示：服飾博物館における年 4 回の企画展示、および北竜湖資料館での展示。 2. 資料収集：企画展示に必要な資料や、歴史的・地域的な見地から不足していると思われる服飾資料の収集。 3. 所蔵資料のデータベース化の推進、運用。 4. 所蔵資料の写真撮影：既存資料の未撮影分と新収資料についての撮影。 5. 所蔵資料の整理・保存：所蔵資料の収蔵状態を整備し、よりよい保存を行う。 6. 印刷物の作成：展示図録、『文化学園服飾博物館だより』等の作成。 7. ホームページの更新。 8. 博物館の本学学生利用の促進とともに、外部利用者の増加をはかる。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 服飾博物館における年 4 回の企画展示の他、北竜湖資料館での展示を行った。(展示名、会期などは「会議等の開催記録」参照) 2. 資料収集：企画展示に必要な資料を中心に収集を行った。 3. 所蔵資料のデータベース化の推進、運用：平成 20 年度収集資料のテキストおよび画像のデータベース化を行った。 4. 所蔵資料の写真撮影：平成 20 年度収集資料についての撮影を行った。 5. 所蔵資料の整理・保存：専用の資料整理箱、整理棚の作成、資料の燻蒸等を行った。 6. 印刷物の作成：展示図録『三井家のきものと下絵』、『ヨーロッパ・モード』、『文化学園服飾博物館だより』23号を作成。 7. ホームページの更新：会期ごとの情報更新の他、随時、最新情報の更新を行った。 8. 博物館の本学学生利用の促進と外部利用者の増加：学内のポスター掲示の他、教職員へのメール配信等を行った。また「ぐるっとパス」に参加し、外部利用者数の増加をはかった。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 展示：服飾博物館における年 4 回の企画展示、および館外展示を行う。 2. 資料収集：企画展示に必要な資料や、歴史的・地域的な見地から不足していると思われる服飾資料の収集。 3. 所蔵資料のデータベース化の推進、運用。 4. 所蔵資料の写真撮影：既存資料の未撮影分と新収資料についての撮影。 5. 所蔵資料の整理・保存：所蔵資料の収蔵状態を整備し、よりよい保存を行う。 6. 印刷物の作成：『文化学園服飾博物館だより』等の作成。 7. ホームページの更新。 8. 博物館の本学学生利用の促進とともに、更なる外部利用者の増加をはかる。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：文化学園服飾博物館

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 15 日 ～6 月 13 日	「優品でたどるヨーロッパ・モード」展 （学内は4月5日より開催） 会場：服飾博物館
平成 21 年 4 月 22 日 ～10 月 31 日	「郷土玩具・ロシアと周辺諸国の民芸」 会場：文化学園北竜湖資料館
平成 21 年 7 月 7 日 ～9 月 30 日	「赤い服 - 日本と世界のさまざまな赤」展 会場：服飾博物館
平成 21 年 9 月 9 日	博物館運営・専門委員会 平成 20 年度報告、平成 21 年度計画、意見交換
平成 21 年 10 月 22 日 ～12 月 19 日	「三井家のきものと下絵」展 会場：服飾博物館 10 月 21 日 内覧会・レセプション
平成 22 年 1 月 26 日 ～3 月 14 日	「パレスチナの民族衣装」展 会場：服飾博物館

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育支援体制の継続、強化の継続。 2. 産学交流の推進の継続。 3. 外部情報公開と交流促進の継続。 4. 学内 Web 公開を目的としたコレクション画像データベースの更新・拡充 5. 学内 Web 公開対応システム構築 6. 研究機能付帯化の検討 7. 人材確保と養成 8. 文化ファッション研究機構について下記の 2 項目について継続して拡充整備する。 テキストスタイル資料室：WEB 版データベースの拡充。 映像資料室：ワールドコレクション画像ソフトの整備。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスタイル資料室：織物産地を中心として素材収集、公開及びレファレンス。テキストスタイルデザインソフト 4 Dbox の学生向け無料講習会開催。 映像資料室：ワールドコレクション画像データベース用データの収集。教材用映像資料の収集、公開及びレファレンス。 コスチューム資料室：コスチュームギャラリーでの資料展示（年 3 回）。学内作品、デザイナー作品の収集、公開及びレファレンス。 企画室：ファッションリソースセンターだより発刊（年 2 回）。 2. 下記 2 項、産学交流の実施。 織物産地との共同事業による現地体験学習・ワークショップ開催（年 2 回、延べ 120 人参加）、デザイナー作品展（年 8 回、延べ 16,000 人参加）、講演会開催（年 2 回）、コンテスト開催。 3. 外部情報公開の一環として「文化学園ファッションリソースクラブ」継続。有料化の下、一般利用者の会員制導入を図る。 4. 映像資料室：IT 推進委員会による学内 Web 公開に向けての調整。 5. テキスタイル資料室：文化ファッション研究機構への参画による学内 Web 化への環境整備をした。 6. 継続して検討中。 7. 継続して検討中。 8. テキスタイル資料室：Web データベースの拡充をした。映像資料室：アーカイブコレクション情報を追加。各資料室での研究委員による利用閲覧が可能となった。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育支援体制の継続、強化の継続。 2. 産学交流の推進の継続。 3. 外部情報公開と交流促進の継続。 4. 学内 Web 公開を目的としたコレクション画像データベースの更新・拡充 5. 学内 Web 公開対応システム構築 6. 研究機能付帯化の検討 7. 人材確保と養成 8. 文化ファッション研究機構について下記の 2 項目について継続して拡充整備する。 テキストスタイル資料室：Web 版データベースの拡充。 映像資料室：ワールドコレクション画像ソフトの整備。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 22 年 2 月 10 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業務、利用状況等報告 2. 運営に関する意見交換

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生が学校や生活になじんでいるかどうかをケアしながら、各学校が行っている文化教養を高める会や懇親会などのような充実した行事を行う。 2. 留学生同士の交流、また日本人学生と留学生の交流を深めるためのイベントを実施する。 <ol style="list-style-type: none"> (1)英語カフェ：新しい時代のニーズに伴い、英語と日本語で会話をする「英語カフェ」を通して、日本人学生と留学生のより一層の交流を図る。 (2)スポーツ交流会：この機会をもう少し増やしてほしいとの要望により、追加実施も検討する。バドミントンのみならず、他のスポーツによる交流も企画する。 (3)「ゆかた体験」など昨年度までの行事も引き続き実施する。 3. 留学生センターの存在を学生たちに周知させ、さらなる利用を促すためにアピールする。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生センターには「留学生の生活を支援して豊かにする」という目標がある。年度初めの「留学生センター運営委員会」では、留学生に直接接している各学校の留学生担当教職員から留学生のニーズと傾向を聞き、意見を交換しながら本年度のイベントを計画、実施してきた。 2. 本年度の課題に挙げたイベントは概ね予定通り実施することができた。 <ol style="list-style-type: none"> (1)日本人学生と留学生、または留学生同士が言葉の垣根なく会話を楽しみ、その後の友達作りにも大いに役立った。継続して参加者が 10～20 名あったが、開催曜日によっては各学校の時間割が合わず、参加者が少ない回もあった。 (2)大学のバドミントン同好会を中心とした日本人学生と各学校の留学生約 30 名が参加し、スポーツを通して協力しあう中でお互いの理解を深めるきっかけ作りになった。当初はバドミントン以外のスポーツで第 2 回目の開催も考えていたが、夏休み明け以降、試験や文化祭などの行事が続き各校の予定を調整することが困難であったため、開催には至らなかった。 (3)日本文化の一端を体験する「ゆかた体験」は留学生に人気で、センター所有のゆかた 17 枚を上回る数の申込があった。実際に着て校外を散歩できたので学生たちには好評であった。 3. 留学生センターの場所や活動内容を記した資料を準備し、各校の新生オリエンテーションで配布した。また、同時に国際交流センターのスタッフがイベントについての説明を行った。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生の生活面を支援し高めるという留学生センターの目的に合うよう、各校の留学生の現状やニーズを正確に把握しなくてはならない。そのために、各校の留学生担当教職員との意見交換を活発にし、各々の留学生に関する最新の情報を入手できるよう努める。 2. 留学生同士、または日本人学生と留学生のさらなる交流をはかるイベントを実施する。 <ol style="list-style-type: none"> (1)「英語カフェ」：留学生と日本人との交流のみならず、留学生には日本文化の理解を、日本人学生には英語力の向上を促すことを目的とする。一昨年から実施しているが、継続して参加希望者がいる。今年度は入学して間もない 4 月から開催し、回数を増やして友達作りを支援する。また、昨年度の反省をふまえ、各学校の学生が集まりやすい曜日と時間に設定する。 (2)「スポーツ交流会」：4 年前より毎年行っているが、毎回留学生にも日本人学生にも人気のイベントである。回数を増やせるかどうかは各学校の留学生センター運営委員に意見を仰ぎ、その他のスポーツでの実施可能性についても検討していきたい。 (3)「日本文化体験」：留学生に人気の「ゆかた体験」は引き続き行う。その他、書道やなぎなたなど、日本への理解を深めるため授業では知ることのできない文化体験の機会を増やす。 3. 留学生センターの存在、場所、開室時間を多くの留学生（特に新生）に知らせるため、オリエンテーションなどで資料を配るなどして広報する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：文化学園国際交流センター / 留学生センター運営委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 5 月 26 日	1．平成 21 年度の留学生センター行事について 2．留学生センターの今後の取り組みについて
平成 22 年 3 月 19 日	1．平成 21 年度の留学生センター活動報告と反省について 2．留学生センターの今後の課題と周知方法について

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進 知的財産の重要性について学園教職員の理解を深め、これを積極的な権利化に資すべく一連の支援サービスの提供を実施する。また、企業等との産学連携による共同研究をサポートし、新技術、新事業の創出を目標とする。また、これまで出願した特許の審査請求を積極的に行い特許を取得し、展示会等への出展を行い社会へ還元していく。</p> <p>2. 知的財産に関する啓蒙活動 知的財産に関する知識とその創出への意欲の向上のため、教職員および学生への教育・普及活動として、講演会の開催、パンフレットの配布、ホームページの更新などを実施する。</p> <p>3. その他事務的処理 学園所有の特許権、実用新案権、商標の更新および保護管理を円滑に行う。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 知的財産の創生、保護及び活用の推進について (1) 文化ファッション大学院大学の関根正雄教授とみやしん株式会社の宮本英次氏による「ブリーツ織製品及びその織成方法染色方法」(ブリーツ織製品及び織成方法に関して、折り目線部を織成により形成することにより、折り目部分を崩れ難いブリーツ織製品及びその織成方法に関する新規技術、経済産業省地域資源活用型研究開発事業)の審査請求を行った。</p> <p>2. 知的財産に関する情報の普及、啓蒙に関する活動について (1) 知財に関する概説、平成 20 年度の実績報告についてまとめたパンフレット(A4 版 1 枚、全 2 頁)を 1000 部作成し、学園内各部署に配布し、センターの活動に関する職員の理解を深めることが出来た。</p> <p>(2) 平成 21 年 12 月 4 日に第 3 回知財センター講演会「アメリカのメンズ服装史におけるブルックスブラザーズの位置づけ～デザイン創作の視点～」を開催し、学園各校の教職員や学生への啓蒙・普及活動を行った。</p> <p>(3) 平成 21 年度版産業財産権標準テキスト「総合編」を学園各校の研究室に配布した。</p> <p>(4) 知的財産に関する講義として「クリエイティブキャリア論 B」を造形学部、短期大学部生活造形学科にて行い、学生への啓蒙活動を行った。</p> <p>(5) 知財センターのホームページの更新を行った。</p> <p>3. その他、知財の保護等(事務的処理他) (1) 「ミセスの友」「被服文化」「服装文化」等の商標権、「洋裁用製図定規」等の意匠権、「衣服の制作方法」等の特許権を更新した。</p> <p>(2) 国立大学法人御茶ノ水女子大学イノベーション・プロデュース研究会主催「2009 知的財産セミナー イノベーションの時代『大学における知財プロフェッショナル』とは」に参加し、日本医科大学、中央大学等の知財担当者と情報交換を行い、知財に関する知見を深めた。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進 (1) 申請のあった特許、意匠、実用新案の権利化を進める。</p> <p>2. 知的財産に関する啓蒙活動 (1) 教職員及び学生を対象に知的財産に関する理解しやすい講演会を開催する。 (2) 年次報告書の作成・ホームページ更新を行う。</p> <p>3. 知的財産の更新及び保護管理 (1) 学園所有の特許権、意匠権、実用新案、商標権の更新及び保護管理を行う。</p> <p>4. 他大学との意見交換、情報交換を図る。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：文化学園知財センター

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 5 月 25 日	知財センター小委員会 1. 運営委員会開催時期の検討 2. 運営委員会議事の検討
平成 21 年 7 月 14 日	知財センター運営委員会 1. 平成 20 年度業務実績 (1) 特許出願 (2) 権利化活動実績 (3) 知財センター主催第 2 回講演会の開催 (4) 知財センターパンフレット No3 の配布(5)ホームページの更新(6)浪間井先生主催「マジックレース展」への協力 2. 平成 21 年度業務計画 (1) 特許出願 (2) 知財センターパンフレット No4 の配布 (3) 知財センター主催第 3 回講演会の開催 (4) 平成 21 年度版産業財産権標準テキストの配布(5) 権利化活動実績 (6) ホームページの更新
平成21年 10 月 14 日	知財センター小委員会 1. 講演会の日時、内容、依頼する講演者を検討
平成21年 11 月 11 日	知財センター小委員会 1. 講演会準備最終確認
平成21年 11 月 19 日	知財センター小委員会 1. 平成 21 年度予算会議
平成22年 1 月 14 日	知財センター小委員会 1. 自己点検対応 2. 学園グラフ
平成 22 年 2 月 9 日	知財センター小委員会 1. 平成 22 年度 事業計画 2. 平成 22 年度 予算 3. 自己点検 4. 知的財産セミナー 5. 熱水分移動計測装置の共同出願契約書について

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 文化ファッション研究機構の研究環境の整備。 2. 「服飾文化共同研究拠点」の整備の事業推進。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 文化ファッション研究機構の研究環境の整備について (1) 共同研究員の増加に伴い、共同研究室を整備(打合せスペースの増設、フィッティングルームの設置)し、研究環境を改善した。また、共同研究室内において各共同研究課題のポスター展示を行い、共同研究員相互の情報交流を促進した。 (2) 平成 22 年度に委嘱できるように研究員をファッション文化部門、ファッションビジネス部門、アパレル科学部門、アパレル形態機能部門、アパレル生産工学部門に整備した。 (3) 事務員の人材配置を行い、事務職員 3 名、非常勤職員 2 名に整備した。 (4) 共同研究室の積極的な利用を促進したことにより、利用件数が大幅に増加した。</p> <p>2. 「服飾文化共同研究拠点」の整備の事業推進について (1) 外部委員 7 名を含む 13 名の運営委員により、共同研究課題の公募と採択を行った。その結果、30 件の応募があり、12 件を採択した。その内訳は、プロジェクト研究として、「きもの」文化に関する研究 5 件、東アジアの民俗服飾文化に関する研究 2 件、現代ファッションの動態研究 2 件、一般研究(服飾文化に係る人文学的研究、社会学的研究、自然科学的・技術的研究) 3 件であった。 (2) 平成 20 年度採択の 14 件の共同研究課題については 2 年分を、平成 21 年度採択の 12 件については 1 年分を、「共同研究成果報告書」として作成した。 (3) 文部科学省の中間評価への対応として、共同研究事業を推進する一方、学際的なシンポジウム「服飾文化研究の分野横断的展開に向けて」を開催し、研究者コミュニティの裾野を広げる取組を行った。 (4) 服飾文化研究成果資料データベース「文化学園リポジトリ」の構築を推進する一方、服飾文化研究者のデータベース構築にも着手した。 (5) 日本 ブラジルファッションシンポジウムの開催、並びにジョン・ギロウの講演会「歩きつづけたアジアの染織」などの国際的な取組を行った。 (6) 平成 22 年度も「服飾文化共同研究拠点」が継続されることになった。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 「服飾文化共同研究拠点」事業の推進 (1) 共同研究事業の推進 (2) 共同研究成果のまとめ (3) 共同研究集会の推進 (4) 服飾文化研究者・研究資料のデータベースの推進 (5) 服飾文化関連のシンポジウム開催 (6) 事業の次年度への継続に向けた努力</p> <p>2. 服飾文化研究の裾野を広げるための企画 (1) 服飾文化の若手研究者の活動支援事業の企画 (2) 服飾文化の国際交流の企画</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：文化ファッション研究機構

開催年月日	会議等の開催記録
平成21年4月14日	第1回文化ファッション研究機構運営委員会 1.平成20年度実績報告 2.平成21年度事業計画(案) 3.平成21年度公募要領・申請書(案)
平成21年6月19日	第1回文化ファッション研究機構研究企画委員会 1.客員研究員の委嘱について 2.機構のプロジェクト「服飾文化研究データベースのための調査研究」について 3.共同研究の採択について 4.「服飾文化研究」叢書の刊行について 5.中間評価対応シンポジウムについて 6.服飾文化研究若手シンポジウム支援について
平成21年6月29日	第2回文化ファッション研究機構運営委員会 1.客員研究員の委嘱について 2.機構のプロジェクト「服飾文化研究データベースのための調査研究」について 3.平成20年度採択服飾文化共同研究の平成21年度分研究について 4.平成21年度服飾文化共同研究の採択について
平成21年9月30日	第2回文化ファッション研究機構研究企画委員会 1.共同研究拠点のシンポジウムについて
平成21年10月28日	第3回文化ファッション研究機構研究企画委員会 1.共同研究拠点のシンポジウム日程、素案 2.平成21年度共同研究報告について
平成21年11月30日 ～12月5日	日本 ブラジル ファッションシンポジウム 1.ブラジルファッションセミナー 2.日本のファッションとビジネス 3.ワークショップ・分科会(ファッション、ジュエリー、コスメティック、シューズ) 4.日本企業のSPA企業戦略
平成22年2月27日	第3回文化ファッション研究機構運営委員会 1.平成21年度実績報告 2.平成22年度事業計画(案) 3.平成22年度予算(案)
平成22年2月27日	服飾文化共同研究拠点シンポジウム 『服飾文化研究の分野横断的展開に向けて』 1.基調講演 鈴木 一義氏(国立科学博物館) 2.パネルディスカッション パネラー 木下 史青氏(東京国立博物館) 佐藤 道信氏(東京芸術大学) 矢野 環氏(同志社大学) 鈴木 真弓(宮内庁図書館) 濱田 久仁雄氏(神戸ファッション美術館)

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験系研究活動は、平成 21 年度にもこのままのレベルで継続することが求められる。研究の国際的発信に向けては、英語による論文作成指導を研究所の課題とし、国際交流センターなどとの協力の下それに向けての支援活動を強化する。 2. 平成21年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の公募については、衣環境学研究所として「高機能アパレル開発に向けた動態学的基礎研究」を申請した。採択された場合は、従来の研究基盤に加えて、スポーツウェア、高齢者衣服などを対象とした動態学的研究の推進を加速する予定である。 3. 研究所報第 3 号は、9 月発刊を目標とする。所報の審査員制度について更に検討する。 4. 研究所の移動、並びに服装造形学科教員の共同使用、学生使用との調整等について検討する。 5. 研究所への人的配置を重要課題とする。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験系研究活動は、文部科学省科学研究費 2 件を含め、期待されたレベルで継続遂行された。研究の国際的発信に向けては、国際交流センターなどの協力・支援を受けて、IFFTI 世界大会において英語による研究発表を行なうなど成果をあげることができた。しかし研究員 1 人 1 人の国際発信に向けては更なる向上が求められる。 2. 平成 21 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に、衣環境学研究所から申請した「高機能アパレル開発に向けた動態学的基礎研究」が採択された。これに伴い旧 C081 教室を改造し 3 次元動作解析装置等を設備した動態研究実験室を整備し、次年度以降の本格始動に先立つ実験研究が実施された。外部研究費の獲得と研究設備の整備は今年度の最大の成果であったと評価できる。 3. 研究所報第 3 号の発行は、残念ながら今年度は見送られた。動態研究実験室の開設その他の事業を優先したため、実質的にこれを担当する人的配置が取れなかったことが原因である。 4. 2 の研究所実験室の新設に伴い、人間工学実験室、その他実験室の移動、並びに服装学科教員の共同使用、学生使用等の調整を行った。あわせて従来の機器のうち大掛かりな 3 次元計測装置・モアレ撮像装置等の廃棄、実験室の整備、鍵管理の調整等を行い、研究所運用上の課題を解決した。 5. 研究所専任の人材配置が求められたが、本年度も実現していない。 【共】
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次年度研究活動の中心は、私立大学戦略的研究基盤形成事業「高機能アパレル開発に向けた動態学的基礎研究」の遂行と、これに関するしっかりした成果をあげることである。平成 21 年度末の 3 月には研究所員に対する 3 次元動作解析装置をはじめとする設備の利用・分析ソフトに関する講習会を実施した。この課題に対し学内の多くの若手研究者の参加を促し、全学的な研究の底上げを図ることを次年度の第 1 課題としたい。成果の国際的発信については国際交流センターからの更なる支援を要請する予定である。 2. 研究所報第 3 号の発刊が遅れたことを反省し、次年度には第 3・第 4 合併号を発刊する予定である。所報の審査員制度についても継続審議し、新規論文の収録を目指す。 3. 研究所に次年度新規導入予定の衣服圧測定装置、並びに動態対応サーモグラフィーについては、研究所実験室に配置予定である。人工気候室内の設備に加えて人間工学実験室、研究所実験室がスムーズに使用できるようその整備、使用管理等に対して従来にもまして配慮が求められ、そのシステムをいかに構築するかが次年度の課題である。 4. 以上の設備装置の運用・管理および研究所員の使用にかかわる事務管理についても、次年度こそは、是非専任技官の配置が求められる。 【共】

検討組織名：文化・衣環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 7 月 17 日	株式会社サンベック佐藤氏と食品用ユニフォームの素材・製品の熱・水分透過特性の評価に関する打ち合わせ。以降、評価実験を推進。
平成 21 年 7 月 30 日	株式会社シャネルの鈴木氏、研究所訪問。今後の研究情報交換について検討。
平成 21 年 9 月 10 日	平成 21 年度第 1 回衣環境学研究所研究会開催。研究所員の自己紹介と今後の研究課題について紹介。研究所長より、文部科学省採択の「高機能繊維開発に向けての動態学的基礎研究」の内容と今後の進め方、研究所整備の見通し等について説明。研究所の運営委員として教授クラスの研究員を選出した。参加者 27 名。
平成 21 年 9 月 10 日	平成 21 年度第 1 回運営委員会開催。今後の方針について協議。
平成 21 年 12 月 3 日	平成 21 年第 2 回研究会開催。実験室の紹介と各種機器の紹介後、新規参加者の自己紹介と、これら機器を利用した研究課題の提案が行なわれた。この後は、各研究者グループによる予備実験に入ることにする。
平成 22 年 3 月 18 日 ～ 19 日	キッセイコムテック片山氏による機器使用方法の説明と、各研究者による実施実験・演習を 2 日間に亘って実施した。参加者延べ 21 名。

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<p>1. 共同研究の推進【大】</p> <p>(1) 住環境学科では引き続き共同研究を活発に行うとともに、生活造形学科においても共同研究が進められるように呼びかけを行い、共同研究の分野範囲を拡大する。</p> <p>(2) 研究所の支援で行われた共同研究については、少なくとも学内研究発表会で報告することを義務づけることで、研究成果を広く公表する。</p> <p>(3) 科学研究費による研究申請につながるための方策等を講じる。</p> <p>2. 造形教育プログラムの開発【大】</p> <p>研究所の支援で行われた教材開発については、教材としての効果を授業等で確認し、学内研究発表会で報告するなどして、積極的に推進する。</p> <p>3. 研究所報の「しつらい Vol.3」の発行【共】</p> <p>平成 20 年度において編集作業が終了した「研究所報 Vol.3」を発行する。</p> <p>4. 参画教員の拡大【共】</p> <p>活動に参画する教員の数を増やすように、共同研究・教材開発等の募集の呼びかけを積極的に行う。</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 共同研究の推進【大】</p> <p>(1) 実施件数は、平成 20 年度は 5 件であったのに対して、平成 21 年度は 12 件に増加した。内訳は、住環境学科 7 件、生活造形学科 3 件、両学科共同 2 件で、分野の広がりについては成果が得られた。</p> <p>(2) 平成 21 年度の共同研究については、学内研究発表会での報告が義務化された。平成 20 年度の共同研究については、学内研究発表会での報告は義務化されていなかったが、1 件の発表があった。所報「しつらい Vol.3」に共同研究の成果を掲載した。</p> <p>(3) 科学研究費による研究申請につながるための方策については、十分な対応はなされなかった。</p> <p>2. 造形教育プログラムの開発【大】</p> <p>(1) 平成 20 年度に実施された造形教育プログラム開発 1 件について学内研究発表会で報告があった。また、発表会場に開発した教材を展示したほか、所報「しつらい Vol.3」に成果を掲載した。</p> <p>(2) 平成 21 年度は 4 件の教材開発を実施した。</p> <p>3. 研究所報「しつらい Vol.3」の発行【共】</p> <p>所報を平成 21 年 9 月に発行し、学内研究発表会において報告ならびに配布を行った。また、年度末に学外の関係者への発送を行った。</p> <p>4. 参画教員の拡大【共】</p> <p>共同研究・教材開発への参画の呼び掛けを造形学部協議会において口頭で行った。研究所の共同研究を 3 学部連携で行う主旨で「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に申請を行った。</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<p>1. 共同研究の推進【大】</p> <p>(1) 両学科による共同研究の推進を継続するとともに、広く学内外との共同研究を推進する。</p> <p>(2) 学内研究発表会および所報での成果報告を継続するほか、造形学部 HP での公表も検討する。</p> <p>(3) 科学研究費ならびに他の公的補助金による研究申請につながるための方策を講じる。</p> <p>2. 造形教育プログラムの開発【大】</p> <p>開発した教材の教育効果について検証するとともに、カリキュラムポリシーとの関係も検討する。</p> <p>3. 研究所報の発行【共】</p> <p>研究所報「しつらい Vol.4」の企画・編集を実施する。</p> <p>4. 研究所の基盤形成と他学部連携の共同研究の推進【共】</p> <p>研究所活動の活性化のため拠点の基盤形成に取組み、他学部教員連携の共同研究にも進展を図る。</p>

検討組織名：文化・住環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 7 月 16 日	1．平成 21 年度の事業計画・予算執行について (1) 共同研究・教材開発についての審議・承認 (2) 認可された予算項目についての確認 (3) 備品購入申請書の記入・提出要領の確認 2．平成 21 年度の学内研究発表会について (1) 共同研究の成果発表の協力依頼と、開発した教材の会場における展示 3．研究所報 Vol.3 について (1) 発行スケジュールの確認・調整
平成 21 年 11 月 24 日	1．平成 21 年度の予算執行状況について (1) 現状の確認と今後の執行計画 2．平成 22 年度の事業計画および予算計画について (1) 申請のあった教材開発 4 件、共同研究 12 件についての審議・承認。 (2) 活動成果の公表方法についての審議 (3) 予算措置が必要な案件についての審議 3．研究所報の今後について (1) 隔年発行のままとするが内容の充実をはかる旨の方針確認 4．その他 (1) 研究所備品の共同利用の促進
平成 21 年 12 月 7 日	1．平成 22 年度の事業計画・予算計画について (1) 事業計画・予算計画の確認・承認 2．文化・住環境学研究所の会計処理方法について (2) 会計処理方法のマニュアル作成・承認
平成 22 年 1 月 29 日	1．文化・住環境学研究所の会計処理方法について (1) 出張届の書き方のマニュアル作成・承認
平成 22 年 1 月 18 日	1．文化・住環境学研究所として「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に申請する件について (1) 申請内容等について協議・承認

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事務業務の IT 化と合理化について、関連部署と連携を取りながら更に効果的な運用について検討を進める。特にポータルサイトの利用について、一層の周知を図る。 2. 学生サービス部門の IT 利用についての検証と効果的な利用についての検討を進める。 3. 職員の業務能力向上と、業務の合理化のためのプログラムを検討する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 22 年度より全学的に Web シラバスを導入するための準備を進めた。記載項目についても「準備学習」と「到達目標」を追加した。履修登録については Web 化するためにはカリキュラムの構築・履修方法等について見直しが必要なため、教務委員会等と共に検討を継続することにした。ポータルサイトの利用促進については、平成 21 年度前期定期試験から「再試・不合格発表」を、後期試験からは更に「定期試験受験不可学生」を加え発表した。学生側に大きな混乱はなく概ね順調にスタートを切ることができた。教員側からは、利用方法等について意見も出ているので今後引き続き検討することとした。 2. 委員会やクラブ・サークルの学生への連絡等についてはポータルサイトの利用は利便性があり効果的であったが更に操作性の改善について検討して行くこととした。 3. IT 活用による教務事務及び学生支援業務の効率化及び合理化については、一定の成果があったものの複雑化したカリキュラムの構造や操作性の改善については更に検討を行っていく必要がある。 4. 全学 SD 委員会におけるグループ別研修会に加え、学外の教育関係団体が実施する研修会等に出席した者に「研修会等で特に印象に残った事項や参考にしたい事項」、「本学で検討すべき事項」「本学の将来構想」について新たに報告を求め、これらを基に議論を行い「事務職員の提言(2009)」としてまとめた。 5. 新たに行った研修会において、学外で行われた研修会等に出席した者からの有益な情報を全職員が共有できたことは有意義であった。今後も引き続き実施していく必要がある。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生支援を効果的に進めるための事務局内の連携体制のあり方について検討する。 2. 職員の情報収集能力の向上と基礎的なカウンセリング能力の向上に向けての取り組みを検討する。 3. 就職活動の早期化・長期化に対応するための学内の指導体制の強化策を検討する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：全学 SD 委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 2 日	<p>全学 FD・SD 研修会の実施</p> <p>全教職員を対象に学校、学部の方針の確認や、学生の質的变化の対応についての解説、「平成 20 年度質の高い教育推進プログラム」(教育 GP) の報告がされた。</p> <p>分科会では、各学部長、事務部門の各部長、全学 FD 委員会委員長を交え、「大学運営に関する現状と課題」について議論を行なった。</p>
平成 21 年 8 月 1 日 ~9 月 10 日	<p>大学事務局の職員全員を 8 グループに分け、次の課題について研修会を実施。</p> <p>課題：大学職員業務の現状と課題について</p> <p>「平成 20 年度全学 FD・SD 研修会分科会報告書」の中で、事務局に関連した課題について先に全学 SD 委員会にて抜粋した資料およびその他の職員業務の様々な課題について、現状を踏まえ改善策等を討議・検討を行なった。</p> <p>上記の報告書については、平成 21 年 9 月 25 日までに全学 SD 委員会に提出されたものを、全学 FD 委員会に資料として提出。</p>
平成 21 年 12 月 25 日	<p>学外団体主催研修会等参加報告会</p> <p>学外団体主催研修会等に参加した職員が、事務局長にレポート（印象に残ったこと・本学で検討すべき事項・本学の将来構想など）を提出。事務局長がピックアップした提言を本人が報告した。</p>

<p>本年度の課題 (平成 21 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育環境に関する安全の確保 2. 教育環境の維持管理と保全計画 3. 教育環境の美化と地域への配慮 4. 教育環境の保安管理体制の改善 5. 省エネルギー対策及びエコ導入計画の推進 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育環境に関する安全の確保 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学生動線の安全確保の一環として、外構周り床タイル割れ部の張替え工事と身障者用の階段手摺り取り付け工事を完了し、バリアフリー対策については、将来計画として継続検討する。 (2) すみれ幼稚園の車庫の老朽化に伴い施設の解体し、園庭改修工事と砂場拡張整備工事を行い園児の環境改善と安全確保が得られた。 (3) 北竜館スキーリフトステージ補強工事を行い研修施設の安全を確保した。 2. 教育環境の維持管理と保全計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 熱源確保の整備における不良箇所の整備として、(R-3)高温再生器の交換工事と(R-1)冷暖切り替え弁の交換工事を完了し信頼度を高めた。 (2) 空調機の経年劣化診断により、F館5台のオーバーホールとJ館ドレンパンの経年劣化(10台)のため、保全改修工事を行った。 (3) 文化軽井沢山荘と文化北竜館の屋根改修工事を完了し研修施設の充実を図った。 3. 教育環境の美化と地域への配慮 <ol style="list-style-type: none"> (1) プラザ休憩スペースのベンチのリニューアルと増設により、いこいの広場として活用されている。 (2) 植栽管理は毎月継続事業とし、花壇の管理について季節感のある花々が味わえるようなキャンパスの環境美化は評判が高い。 4. 教育環境の保安管理体制の改善 <ol style="list-style-type: none"> (1) 防災センター24時間監視体制は継続しながら、既存カメラ監視装置の警戒範囲の構築と、緊急警報システム導入による連動については、平成 22 年度継続検討をする。 5. 省エネルギー対策及びエコ導入計画の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 無駄な照明等の節電と冷暖房の温度設定に理解を求め、当面の課題を達成することができたが、次年度以降も継続事項としてエネルギーの削減に努める。 (2) 温室効果ガス排出量の総量削減義務と排出量取引制度の施行にむけて、次年度の対策案の検討と学園としての方針を決定した。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課 題 (平成 22 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な学園施設の建物調査・診断等を行い、総合的な施設整備計画に基づき、教育環境の整備と安全に努める。 2. 附属すみれ幼稚園、室蘭幼稚園の教育環境の安全と教育施設の確保に努める。 3. 学生寮の一元的な運営管理を実施し、効率的な運営体制を図る。 4. CO2 総量削減対策の段階的な計画を遂行する。 5. 新都心キャンパスの危機管理計画を推進する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：経理本部

報告者：秋元 雅則

提出日：平成 22 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 21 年度)	<ol style="list-style-type: none">1. 寄附金獲得の体制の充実と方策の検討。2. 奨学基金をも含めた教育環境整備への基金体制の更なる充実。3. 経理規程の見直しの検討。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
取組の結果と 点検・評価	<ol style="list-style-type: none">1. 寄附金獲得の体制の充実と方策の検討。 他大学の寄附金募集の状況を参考にし、体系的な寄付金募集の方策を検討し、具体的な方法を検討している。 尚、本年度において1億円の寄附金の申込があり、平成 22 年度、平成 23 年度に各々 5 千万円の入金がある。2. 奨学基金をも含めた教育環境整備への基金体制の更なる充実。 平成 21 年度においては、教育基盤整備のための創立 90 周年事業引当資産へ 5 億円の繰入、減価償却引当資産へ 2 億円の繰入により、将来への対応をとった。3. 経理規程の見直しの検討。 組織・実務に合わせるため経理規程を変更し、財務・経理規程とした。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
次年度への 課 題 (平成 22 年度)	<ol style="list-style-type: none">1. 寄附金獲得の体制の具体化。2. 財務基盤整備への各種積立金の確保。3. 経理関係規程の整備、見直し。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

<p>本年度の課題 (平成21年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化ファッション研究機構 - リポジトリ構築他 ファッションの研究データベースを作成する為、文化学園で保有する論文関連の外部公開を実施。データベース作成や学内論文整備（著作権含）を行う。 2. 遠隔授業システムの構築 『新都心キャンパス 附属長野高校』間に続き、『新都心キャンパス 小平キャンパス』でも授業・会議・イベントの配信等、新しい授業への取り組みや展開を目指す。 3. 附属機関データの有効活用 博物館の現データベースを分析し、新たに統一化可能なデータベース化を検討し、共有データベースの構築等の積極展開を図る。 各機関のデータベース化・共有データベースの構築等、積極展開を図る。 4. 大学事務システムの再構築 今後の方向性を将来性も含め検討する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化ファッション研究機構 - リポジトリ構築他 ファッションの研究データベースを公開準備完了、リポジトリ構築は文化学園で保有する論文関連の外部公開を実施。 2. 遠隔授業システムの構築・運用開始 『新都心キャンパス 小平キャンパス』の遠隔講義を可能とするシステム構築完了。 現在、授業に限らず頻繁に行われる各委員会の遠隔会議システムとしても利用。 3. 附属機関データの有効活用 博物館の外部公開用データベースの分析開始、公開方法を検討。 図書館デジタルアーカイブの再構築、また、ファッションリソースセンターのコレクションデータベースを汎用的に利用出来るよう Web 公開用の構築を行った。 4. 大学事務システムの再構築 就職支援システムのパッケージを導入。 引続き、今後の方向性を含め検討する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成22年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種 附属機関データベースの充実化を図る ファッション研究機構/図書館リポジトリ/図書館貴重書/服飾博物館等のデータベースの構築の積極展開を目指す。 2. ポータルサイトの再構築検討 さまざまな学生サービスへの利用項目を検討。 また、最新の携帯電話の機種に柔軟に対応できるポータル製品の検討を開始したい。 3. 大学事務システムの再構築 今後の方向性を含め（現状維持・独自開発、パッケージ化）検討していく。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

検討組織名：IT委員会（EDP室ネットワークソリューション課）

開催年月日	会議等の開催記録
平成 21 年 4 月 1 日	教職員 Adobe セミナー開催
平成 21 年 4 月 21 日	遠隔講義システム 新都心 小平配信導入打ち合わせ
平成 21 年 5 月 12 日	就職システム パッケージ導入打ち合わせ
平成 21 年 5 月 20 日	ポータルシステム 追試・再試情報 利用打ち合わせ
平成 21 年 5 月 26 日	遠隔講義システム 必要機器確認打ち合わせ
平成 21 年 5 月 28 日	遠隔講義システム・ポータルサイト 打ち合わせ
平成 21 年 6 月 3 日	図書館リポジトリ 打ち合わせ
平成 21 年 6 月 8 日	Web シラバス導入打ち合わせ
平成 21 年 6 月 11 日	遠隔講義システム 新都心 附属長野高校 配信実施
平成 21 年 6 月 19 日～ 30 日	大学ポータルサイト説明会
平成 21 年 7 月 9 日	研究者データベース 構築イメージ 打ち合わせ
平成 21 年 7 月 23 日	補助金打ち合わせ会議
平成 21 年 7 月 22 日～ 27 日	大学ポータルサイト 学生説明会
平成 21 年 7 月 31 日	ネットワークスイッチ 構成変更打ち合わせ
平成 21 年 8 月 7 日	Web シラバス 構築打ち合わせ
平成 21 年 9 月 7 日	大学 IT 小委員会 来年度のパソコン環境について他
平成 21 年 9 月 16 日	遠隔講義システム 新都心 小平配信導入 本番開始
平成 21 年 9 月 24 日	就職システム パッケージ導入 打ち合わせ
平成 21 年 10 月 5 日	就職システム パッケージ導入 ネットワーク環境 打ち合わせ
平成 21 年 10 月 16 日	ファッションリソースセンターデータベース 構築打ち合わせ
平成 21 年 11 月 13 日	ポータルサイト 携帯新機種対応についての打ち合わせ
平成 21 年 11 月 17 日	図書館リポジトリ システム今後の打ち合わせ
平成 21 年 12 月 7 日	博物館データベース 構築打ち合わせ
平成 21 年 12 月 18 日	研究者データベース 構築打ち合わせ
平成 22 年 1 月 18 日	就職システム Server 設定後、システム打ち合わせ
平成 22 年 2 月 12 日	ネットワークスイッチ変更設定打ち合わせ
平成 22 年 3 月 18 日	就職システムパッケージ テスト導入

検討組織名：学園総務本部

報告者：佐藤 申

提出日：平成 22 年 4 月 1 日

本年度の課題 (平成 21 年度)	1. 職員就業規程の改定 <p style="text-align: right;">【共】</p>
取組の結果と 点検・評価	1. 前回の改定（平成 6 年）より 15 年が経過し、以下の点について規程の見直しを行った。 (1) 法律の改正に伴う修正を行う。 (2) 新たな決まりや変更が公示され、運用している内容を明記する。 (3) 職員にわかりやすい規程となるように文言の整理をする。 (4) 懲戒事由や処分内容を明確化する。 総務部、人事厚生部のスタッフで打合せを重ね改定案を作成した。この改定案をもとに、学園運営会議に諮り、労働組合並びに職員労働者過半数代表者の了承を経て、平成 22 年 2 月 25 日の理事会で承認され、平成 22 年 4 月 1 日より施行した。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
次年度への 課 題 (平成 22 年度)	1. 規程の閲覧や周知の方法についてイントラネットを利用するなどの改善を図っていく。また、職員に法令並びに学内規程の遵守を啓蒙していく。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

平成 21 年度 文化女子大学委員会委員一覧表

平成 21 年 5 月 1 日

[常置委員会]

委員長 副委員長 書記 (敬称略・順不同)

	教 務	学生生活	研 究	カリキュラム	紀要編集	
1	服装造形学 服装デザイン学、服飾工芸	水谷みつ江	横溝美智子	大平 光子	遠藤 典子	鈴木 正文
2	短大部服装学科	佐藤 美雪	佐藤 綾	柴田 早苗	渡部 旬子	根本賀奈子
3	被服材料、管理、衛生 生産工学、ファッション画	高村 是州	佐藤真理子	横田香野子	由利 素子	矢中 睦美
4	服装社会学 服装史学	糸林 誉史	福田 博美	古賀 令子	田中 里尚	金川 孝義
5	染織・金工、グラフィック・プロダクト 造形文化、絵画、基礎デザイン	柴田 眞美	佐藤百合子	矢川由美子	七里 真代	牧野 昇
6	建築デザイン、住居デザイン インテリアデザイン、室内計画、色彩学	長山 洋子	カボラリ薫	沼尻 七子	渡邊 裕子	曾根 里子
7	総合教養、日本語、情報科学、 体育学・教育学、調理学、博物館学	齋藤満里子	山ノ内 友子	畠山 紀子	安藤 葉子	山ノ内 ヒロコ
8	総合教養、欧米文化 日本・アジア文化、健康心理	加藤 薫	星 圭子	西村 修一	安永 明智	根岸 愛子
9	国際ファッション 英語コミュニケーション	城 由紀子	河上千津子	古屋 則子	田坂真紀子	白井菜穂子
10	教務部、学生部 就職相談室	円谷 葉子 山口 嘉史	北城 茂樹 宮本 朱		円谷 葉子 山口 嘉史	

[専門委員会]

教職課程	学芸員課程	衣料管理士課程	住環境系資格	司書課程	文化・語学研修	日本語教員 養成課程	児童英語教員 養成課程
鹿取 武司 坂本 政子 木村 典子 野原 明 永野 順子 尾上千加世 福井 路可 カボラリ薫	佐藤 正明 田中 直人 福田 博美 福井 路可	小澤 節子 大熊志津江 由利 素子 鈴木 正文 小柴 朋子 永井 伸夫 矢中 睦美 平良木啓子 大橋 寛子 鄭 永娥	谷口久美子 久木 章江 渡邊 裕子 長山 洋子 井上 祐一 井上 搖子 浅沼 由紀 横山 稔 渡邊 秀俊 丸茂みゆき	穴戸 寛 瀬島健二郎	伊藤 敏郎 加藤 薫 古御堂誠子 青木 征子 石田名都子 佐藤 浩信 古屋 則子 C.プロシヤン 山口 嘉史	齋藤真理子 加藤 薫 星 圭子 白井菜穂子	久保田 文 坂本 政子 古屋 則子

[特別委員会]

留学生指導	学生募集対策	就 職	公開講座運営	全学自己点検・評価	全学 F D	ハラスメント防止	留学制度検討
近藤 尚子 久保田 文 白井 信 松平寿美枝 柳田 佳子 三國 純子 境 希里子 野沢さおり 久木 章江 栗山 丈弘	松本美保子 大熊志津江 佐藤 浩信 庄司喜久美 砂長谷由香 熊谷 伸子 小出 恵 高橋 正樹 中沢 志保	大関 徹 永富 彰子 小山 昭男 関根 正文 松田 祐之 正田 康博 伊藤由美子 鈴木 直恵 伊藤 丙雄 三島 万里 古御堂誠子	香川 幸子 松田 純子 三澤 政純 伊賀 憲子 松本 章 佐藤 美雪 長沢 幸子 北方 晴子 豊田かおり 田中 直人	佐藤真知子 渡邊 秀俊 石田名都子 伊藤由美子 梶田 貴子 竹内 将蔵 永野 順子 押山 元子 磯崎 明美 北浦 肇 大津由美子 杉田秀二郎 鹿島 和枝	小山 昭男 山ノ内 友子 山ノ内 ヒロコ 白井菜穂子 沼尻 七子 柴田 眞美 佐藤 綾 野沢さおり安 永 明智 遠藤 典子	永野 順子 三島 万里 千葉 悦子 竹内 将蔵 青柳 宏 松田 一政 北城 茂樹 福田 善視 相 談 員 鹿島 和枝 平良木啓子 丸茂みゆき 安高 信一 星 圭子 梶田 貴子 宮本 朱 岡部佐代子	大沼 聡 濱田 勝宏 林 泉 澤田 知子 佐藤真知子 堀尾真紀子 坂本 政子 三澤 政純 三國 純子 古屋 則子 山本 順二 福田 善視 北城 茂樹 柿島 由雄 円谷 葉子 山口 嘉史
福田 善視 北城 茂樹 宮本 朱 岡部佐代子	北城 茂樹 藤崎 享 山口 嘉史 相澤 浩子	松田 一政 吉田 和代 岡部佐代子	北城 茂樹 山口 嘉史	山本 順二 福田 善視 北城 茂樹 相川 孝 円谷 葉子 山口 嘉史	松田 一政 北城 茂樹 福田 善視		山本 順二 福田 善視 北城 茂樹 柿島 由雄 円谷 葉子 山口 嘉史

研究倫理	研究公正	研究費 不正使用防止	IT委員会 大学小
濱田 勝宏 田村 照子 根岸 愛子 澤田 知子 荒牧 琢己 米山 雄二 木村鞆太郎 野口 京子 永井 伸夫 佐藤真理子 山本 順二	濱田 勝宏 山本 順二 田村 照子 根岸 愛子 青柳 宏 星野 茂樹 渡邊 秀俊 近藤 尚子 永井 伸夫 福田 善視 原島 陽一	濱田 勝宏 澤田 知子 林 泉 田村 照子 根岸 愛子 森川 陽 山本 順二 福田 善視 原 敏夫 小林 哲夫 佐川 秀夫 岸原 芳人	山ノ内 友子 渡邊 秀俊 濱田 勝宏 柳田 佳子 熊谷 伸子 野沢さおり 北浦 肇
円谷 葉子		[幹事] 相川 孝 円谷 葉子	北城 茂樹 相川 孝 山口 嘉史

入学定員・収容定員・在籍学生数（平成21年5月1日現在）

文化女子大学大学院

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
生活環境学	被服環境学(博士後期)	2	6	17
	被服学(博士前期)	20	40	24
	生活環境学(修士)	6	12	8
国際文化	国際文化(修士)	6	12	9

文化女子大学

学部名	学科名	入学定員	収容定員	現員
服装	服装造形	360	1360	1502
	服装社会	140	500	636
造形	生活造形	140	600	637
	住環境	120	580	476
現代文化	国際文化	30	150	101
	国際ファッション文化	100	430	561
	健康心理	30	140	64

文化女子大学短期大学部

学科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
服装		200	400	400
生活造形		60	120	127
専攻科	被服	20	20	34

学部・学科・コース編成 (平成21年度)

文化女子大学大学院

生活環境学研究科	被服環境学専攻(博士後期課程) 被服学専攻(博士前期課程) 生活環境学専攻(修士課程)	
国際文化研究科	国際文化専攻(修士課程)	国際文化専修 健康心理学専修

文化女子大学

服装学部	服装造形学科	クリエイティブデザインコース 機能デザインコース アドバンステクニクコース インダストリアルテクニクコース ブランド企画コース テキスタイル企画コース	
	服装社会学科	服装社会学コース ファッションビジネスコース 服飾文化コース	ファッション文化専攻 服飾史専攻
造形学部	生活造形学科	グラフィック・プロダクトデザインコース メディア編集デザインコース テキスタイルワークコース ジュエリー・メタルワークコース アートワークコース	
	住環境学科	2年次 建築デザインコース 住居デザインコース インテリアデザインコース インテリアデザイン(二級建築士)コース 3・4年次 建築デザインコース 住居デザインコース インテリアデザインコース インテリアデザイン(二級建築士)コース	住居・インテリア専攻 住文化専攻 インテリアコーディネート専攻 インテリアプロダクト専攻 インテリアコーディネート専攻 インテリアプロダクト専攻
現代文化学部	国際文化学科	欧米・中国・日本文化コース 英語英文コース 観光文化コース	
	国際ファッション文化学科	スタイリスト・コーディネーターコース プロデューサー・ジャーナリストコース 映画・舞台衣装デザイナーコース	
	健康心理学科	健康心理コース 健康システムコース	

文化女子大学短期大学部

服装学科	ファッションクリエイティブコース ファッションビジネスコース	
生活造形学科	2年次 生活雑貨デザインコース インテリアデコレーションコース インテリアデザインコース	
専攻科	被服専攻	

全学自己点検・評価委員会 委員名簿

委員長	佐藤	眞知子
副委員長	渡邊	秀俊
副委員長	石田	名都子
書記	伊藤	由美子
書記	梶田	貴子
	竹内	将歳
	永野	順子
	大津	由美子
	押山	元子
	磯崎	明美
	鹿島	和枝
	北浦	肇
	杉田	秀二郎
	山本	順二
	福田	善視
	北城	茂樹
	相川	孝
	円谷	葉子
	山口	嘉史
	山川	あづさ
	藤澤	千晶

文化女子大学
文化女子大学短期大学部
自己点検・評価報告書 平成21年度

平成22年6月1日発行

編集：文化女子大学 文化女子大学短期大学部
全学自己点検・評価委員会

発行：文化女子大学 文化女子大学短期大学部